

第7回しょうけい運営有識者会議（持ち回り開催）

○議 事

- （1）令和元年度しょうけい館運営事業の実施状況について
- （2）令和2年度しょうけい館運営事業計画案について

○配付資料

- ・ 資料1 令和元年度しょうけい館事業実施状況報告
- ・ 資料2 令和2年度しょうけい館事業計画案
- ・ 資料3 企画展の概要
- ・ 資料4 広報及びネット掲載記事一覧
- ・ 資料5 1階展示室更新図
- ・ 資料6 友の会通信
- ・ 資料7 令和2年度しょうけい館事業計画表

令和元年度しょうけい館事業実施状況報告

(平成31年4月から令和2年2月末日まで)

目次

1 しょうけい館利用状況

| | |
|-------------------|---|
| 来館者数 | 1 |
| 企画展 来館者数 | 2 |
| (1)団体利用集計（学校別） | 3 |
| (2)団体利用集計（人数別） | 3 |
| (3)令和元年度（利用団体人数別） | 4 |
| (4)令和元年度 団体見学の様子 | 5 |

2 展示

| | |
|-----------------|----|
| (1)企画展の実施 | 6 |
| ミニ展示の実施 | 9 |
| (2)3館同時企画展開催 | 10 |
| ①しょうけい館－福島展－ | 10 |
| ②夏休み3館連携スタンプラリー | 11 |
| ③こども霞が関見学デー | 11 |
| (3)上映会の開催 | 12 |
| (4)貸出キットの利用 | 13 |

3 資料収集・保存

| | |
|--------------|----|
| (1)新規証言映像の収録 | 14 |
| (2)実物資料の収集 | 14 |
| (3)図書資料の収集 | 14 |

4 普及・広報

| | |
|---------------------------|----|
| (1)広報用ポスター・千代田区コミュニティバス掲示 | 15 |
| (2)ホームページ・情報媒体利用 | 15 |
| (3)パンフレット等の配布 | 16 |
| (4)掲載記事 | 16 |
| しょうけい館－福島展－新聞掲載 | 17 |
| 関連記事 | 18 |

5 語り部育成事業

| | |
|--------------|----|
| 6 語り部活動事業 | 20 |
| 語り部講話活動実施一覧表 | 21 |

7 情報システム運用管理

8 友の会

9 令和元年研修実施報告

10 1階改修工事

11 利用者アンケート

25～28

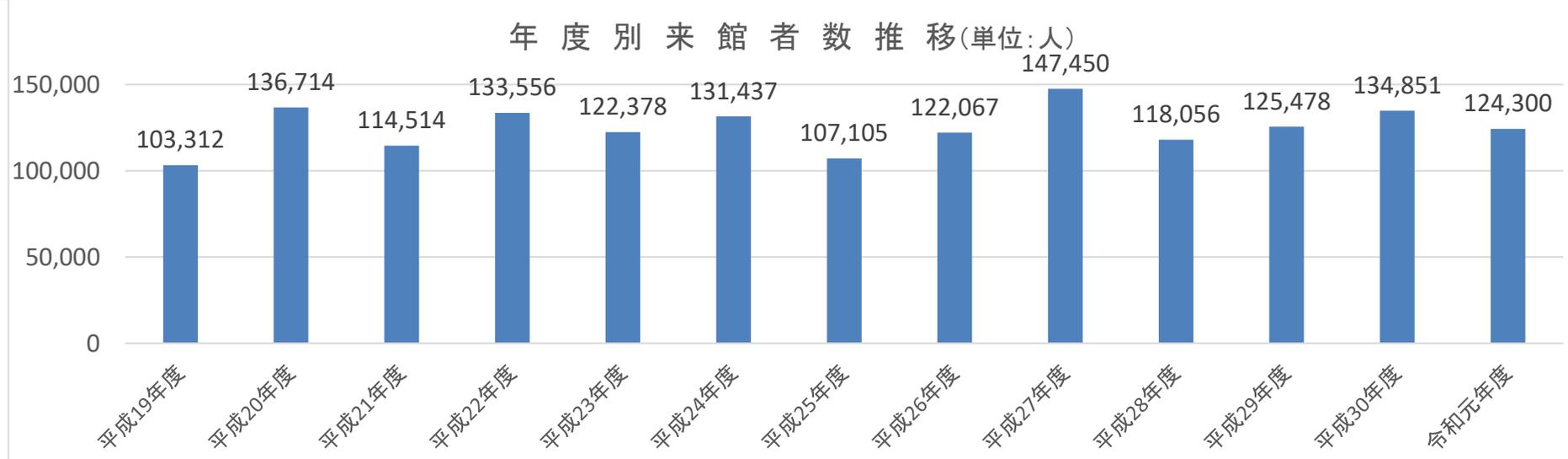
令和元年度事業実施状況報告

1 しょうけい館利用状況

しょうけい館 来館者数 来館者数は、館が設置している「自動カウンター機」により計測

(単位:人)

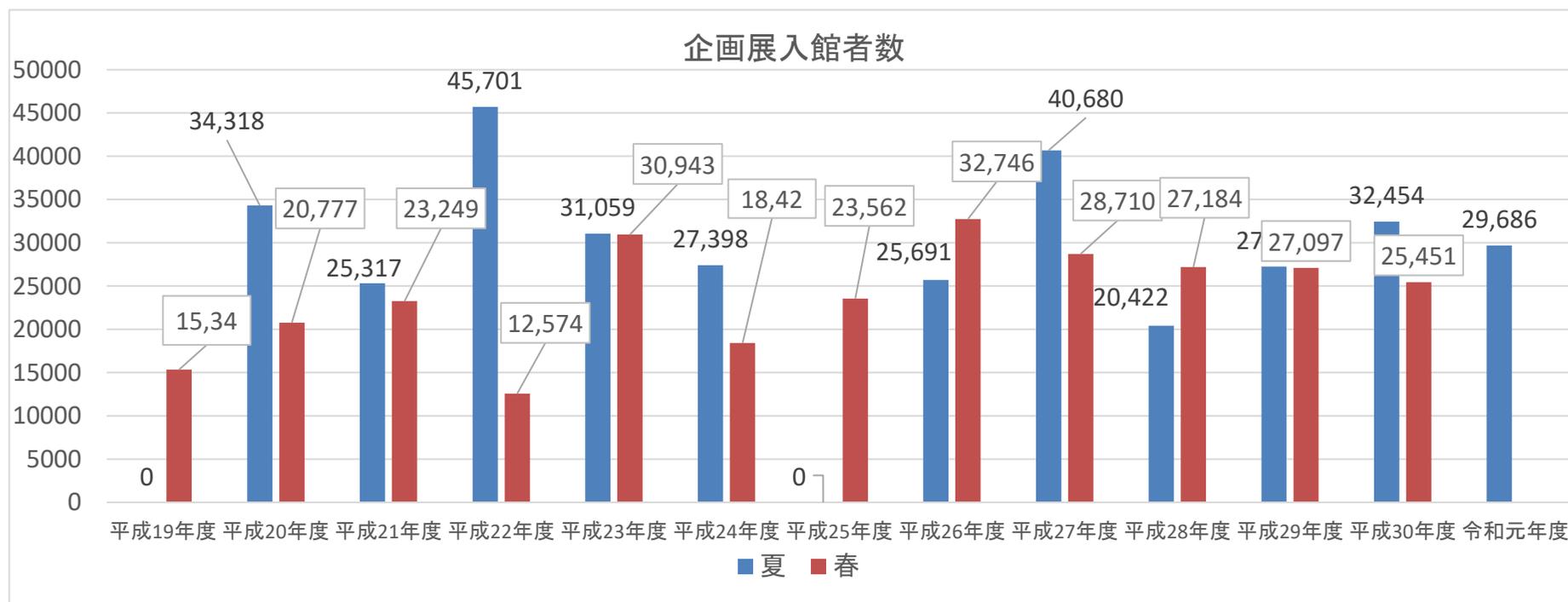
| 月/年 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 4 | 8,439 | 13,980 | 12,276 | 14,139 | 11,723 | 13,568 | 9,644 | 12,806 | 11,873 | 12,327 | 13,761 | 13,978 | 13,824 |
| 5 | 9,193 | 9,395 | 7,592 | 8,164 | 7,982 | 14,710 | 9,421 | 11,224 | 11,526 | 8,864 | 8,732 | 8,796 | 9,413 |
| 6 | 8,356 | 14,235 | 11,548 | 11,940 | 11,635 | 12,424 | 11,748 | 12,043 | 12,172 | 12,163 | 12,134 | 9,166 | 10,123 |
| 7 | 10,094 | 10,345 | 10,655 | 16,356 | 12,395 | 12,480 | 10,884 | 13,515 | 16,547 | 9,083 | 12,489 | 12,998 | 13,827 |
| 8 | 16,608 | 17,316 | 14,640 | 17,260 | 15,192 | 17,236 | 13,592 | 15,763 | 21,267 | 12,663 | 16,369 | 19,039 | 17,147 |
| 9 | 8,277 | 13,664 | 7,610 | 12,996 | 10,125 | 9,892 | 8,205 | 8,943 | 12,218 | 8,387 | 8,453 | 9,199 | 8,733 |
| 10 | 6,653 | 7,392 | 8,252 | 9,186 | 8,346 | 12,664 | 8,960 | 9,479 | 10,350 | 8,590 | 9,028 | 10,510 | 9,161 |
| 11 | 8,365 | 6,232 | 7,144 | 9,888 | 8,024 | 8,264 | 8,124 | 8,477 | 9,624 | 6,347 | 9,118 | 11,013 | 11,332 |
| 12 | 5,497 | 7,760 | 8,316 | 8,792 | 7,953 | 8,012 | 8,442 | 8,602 | 11,753 | 8,888 | 7,382 | 9,045 | 9,623 |
| 1 | 4,910 | 16,527 | 7,580 | 8,140 | 6,203 | 5,210 | 5,970 | 5,994 | 12,422 | 9,169 | 8,247 | 10,266 | 11,213 |
| 2 | 7,311 | 10,476 | 8,893 | 8,912 | 8,420 | 7,118 | 4,381 | 5,119 | 8,673 | 9,194 | 8,358 | 11,397 | 9,904 |
| 3 | 9,609 | 9,392 | 10,008 | 7,783 | 14,380 | 9,859 | 7,734 | 10,102 | 9,025 | 12,381 | 11,407 | 9,444 | — |
| 計 | 103,312 | 136,714 | 114,514 | 133,556 | 122,378 | 131,437 | 107,105 | 122,067 | 147,450 | 118,056 | 125,478 | 134,851 | 124,300 |



企画展 来館者数

(単位:人)

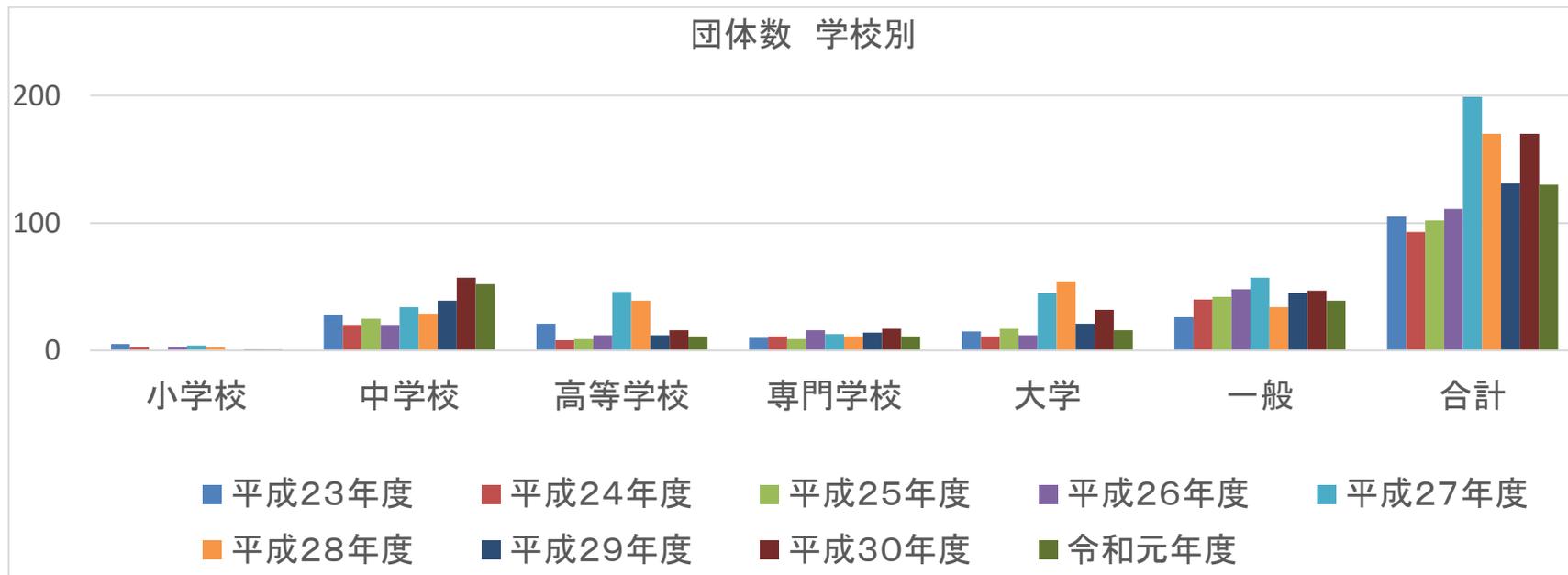
| 年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 夏 | — | 34,318 | 25,317 | 45,701 | 31,059 | 27,398 | — | 25,691 | 40,680 | 20,422 | 27,253 | 32,454 | 29,686 |
| 春 | 15,347 | 20,777 | 23,249 | 12,574 | 30,943 | 18,427 | 23,562 | 32,746 | 28,710 | 27,184 | 27,097 | 25,451 | |



(1) 団体利用集計(学校別)

令和2年2月末日(単位:校)

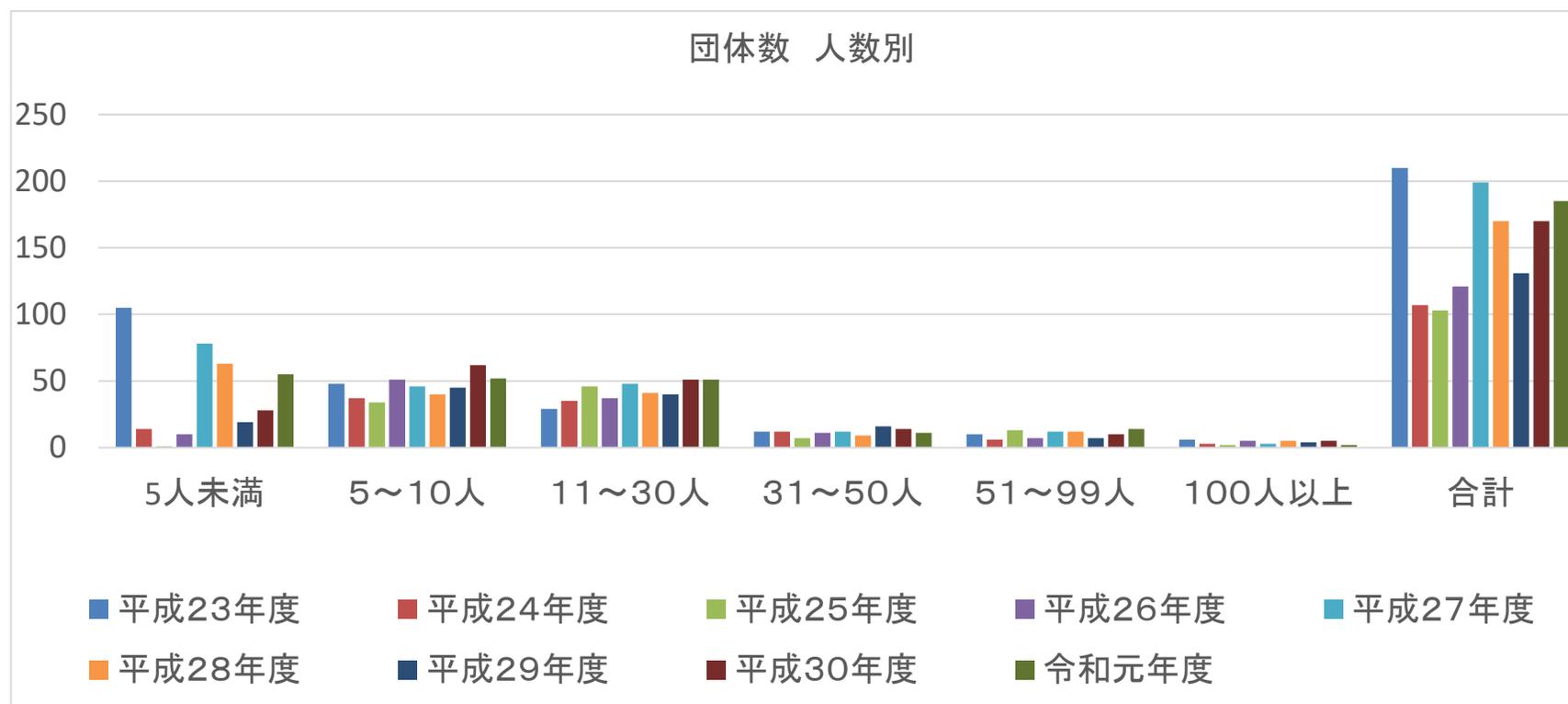
| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 専門学校 | 大学 | 一般 | 合計 |
|--------|-----|-----|------|------|----|----|-----|
| 平成23年度 | 5 | 28 | 21 | 10 | 15 | 26 | 105 |
| 平成24年度 | 3 | 20 | 8 | 11 | 11 | 40 | 93 |
| 平成25年度 | 0 | 25 | 9 | 9 | 17 | 42 | 102 |
| 平成26年度 | 3 | 20 | 12 | 16 | 12 | 48 | 111 |
| 平成27年度 | 4 | 34 | 46 | 13 | 45 | 57 | 199 |
| 平成28年度 | 3 | 29 | 39 | 11 | 54 | 34 | 170 |
| 平成29年度 | 0 | 39 | 12 | 14 | 21 | 45 | 131 |
| 平成30年度 | 1 | 57 | 16 | 17 | 32 | 47 | 170 |
| 令和元年度 | 3 | 67 | 18 | 11 | 46 | 40 | 185 |



(2) 団体利用集計(人数別)

令和2年2月末日(単位:人)

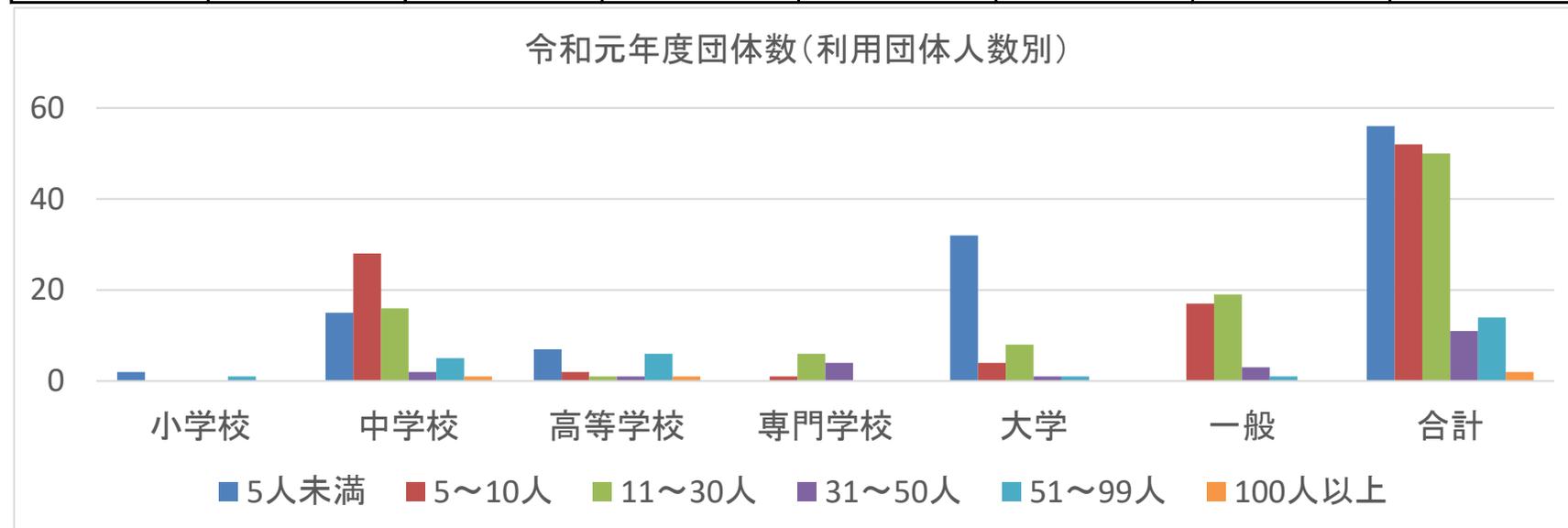
| | 5人未満 | 5～10人 | 11～30人 | 31～50人 | 51～99人 | 100人以上 | 合計 |
|--------|------|-------|--------|--------|--------|--------|-----|
| 平成23年度 | 105 | 48 | 29 | 12 | 10 | 6 | 210 |
| 平成24年度 | 14 | 37 | 35 | 12 | 6 | 3 | 107 |
| 平成25年度 | 1 | 34 | 46 | 7 | 13 | 2 | 103 |
| 平成26年度 | 10 | 51 | 37 | 11 | 7 | 5 | 121 |
| 平成27年度 | 78 | 46 | 48 | 12 | 12 | 3 | 199 |
| 平成28年度 | 63 | 40 | 41 | 9 | 12 | 5 | 170 |
| 平成29年度 | 19 | 45 | 40 | 16 | 7 | 4 | 131 |
| 平成30年度 | 28 | 62 | 51 | 14 | 10 | 5 | 170 |
| 令和元年度 | 55 | 52 | 51 | 11 | 14 | 2 | 185 |



(3) 令和元年度団体数(利用団体人数別)

令和2年2月末日(単位:)

| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 専門学校 | 大学 | 一般 | 合計 |
|--------|-----|-----|------|------|----|----|-----|
| 5人未満 | 2 | 15 | 7 | 0 | 32 | 0 | 56 |
| 5～10人 | 0 | 28 | 2 | 1 | 4 | 17 | 52 |
| 11～30人 | 0 | 16 | 1 | 6 | 8 | 19 | 50 |
| 31～50人 | 0 | 2 | 1 | 4 | 1 | 3 | 11 |
| 51～99人 | 1 | 5 | 6 | 0 | 1 | 1 | 14 |
| 100人以上 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 計 | 3 | 67 | 18 | 11 | 46 | 40 | 185 |



- ・常設展示室の令和元年度の団体利用の状況は、令和2年2月末現在で130団体
- ・団体申込み……………64団体(内、展示解説付見学54団体・グループ見学10団体、語り部講話付き19団体)
- ・団体申込みなしのグループ……66団体

(4) 令和元年度 団体見学の様子

1F 〈シアター〉 証言映像視聴



読売理工医療福祉専門学校
介護福祉学科(36名)



浦和ルーテル学院高等学校(61名)



埼玉県戸田市遺族会(28名)

〈展示室〉 概要説明



防衛医科大学校(75名)

2F 〈常設展示室〉 展示解説



神田女学園中学校(10名)



三重県桑名市立明正中学校(7名)



愛知県豊田市立高橋中学校(6名)



陸上自衛隊衛生学校(35名)

2 展 示

(1) 企画展の実施

① 春の企画展：“想い”を込めて ～作品からみる戦傷病者～

〈会 期〉 平成31年3月12日(火)～令和元年5月6日(月) 〈来館者数〉25,451人 (自動カウント機による計測)

〈協 力〉 古河歴史博物館

〈内 容〉 当館所蔵の資料を中心に戦傷病者の作品を紹介。各々の戦傷病者が自身のハンディを抱えながら作り上げた作品の数々……。そこには作者が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦“想い”が込められている。戦地へ赴き、受傷や発症によってその後の人生が大きく変えられてしまった人々の作品を通して、戦中・戦後の労苦を乗り越えた“想い”を紹介した。

〈関連イベント〉 証言映像上映会 : 関連戦傷病者の証言映像を8本を上映
フロアレクチャー : 学芸員による企画展の展示解説を行った。 3月24日(日)、4月7日(日)、5月5日(日)



企画展会場



企画展資料



企画展フロアレクチャー



企画展フロアレクチャー

② 夏の企画展 : 病院船～戦傷病者を還送した船～

- 〈会 期〉 令和元年7月17日(水)～9月8日(日〈来館者数〉29,686人 (自動カウント機による計測)
- 〈協 力〉 日本郵船氷川丸、日本郵便歴史博物館、横浜みなと博物館
- 〈内 容〉 「氷川丸」が病院船として、昭和16年に徴用された以降の詳細は、活動記録が記されている「氷川丸行動表」(厚生労働省所蔵)をはじめ、病院船の活動の実態を紹介するとともに、病院船で搬送された戦傷病者にまつわる資料、証言をもとに病院船とはどのような存在であったのかについて紹介した。
- 〈関連イベント〉 証言映像上映会 : 病院船の乗船経験者16本の証言映像、日本映画社記録映画の1本を上映
 フロアレクチャー : 学芸員による企画展の展示解説を行った。7月28日(日)、8月4日(日)、8月25日(日)



企画展会場



企画展資料



企画展フロアレクチャー



企画展フロアレクチャー

③ 春の企画展 : 病床からフィールドへ ～スポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡～

- 〈会 期〉 令和2年3月10日(火)～5月10日(日)
- 〈協 力〉 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、NHK、日本赤十字社
- 〈内 容〉 本展では、スポーツが戦傷病者の人生にどのように関わってきたのか、戦時中の傷痍軍人錬成大会や東京パラリンピックなどを通じて紹介する。2020東京オリパラ応援プログラム認定済み。また、1964年東京パラリンピックの様子を収めた大変に貴重なカラーフィルム「PARALYMPIC TOKYO 1964」を上映します。
- 〈関連イベント〉 証言映像上映会 : 展示に関する証言映像を上映(会期中毎日)
 記念講演会 : 吉田紗栄子氏(1964年東京パラリンピック通訳ボランティア)による講演会 3月15日(日)
 フロアレクチャー : 学芸員による企画展の展示解説 3月29日(日)、4月19日(日)、5月3日(日)

1964年東京パラリンピック 幻のカラー記録映画上映!!

PARALYMPIC TOKYO 1964

春の企画展
病床からフィールドへ
 ～スポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡～

令和2年(2020) **3.10** 火・**5.10** 日

開館時間 ▶ 10時～17時30分(入館は17時まで)
 会場 ▶ しょうけい館1階展示室
 休館日 ▶ 毎週月曜日・5/7(6/4)は開館

協力: 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、NHK、日本赤十字社

春の企画展
病床からフィールドへ
 ～スポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡～

本展では、身体機能の回復・強化を旨とするなかで、戦傷病者がスポーツとどのように関わってきたのかを紹介し、戦時中に開催された「傷兵慰問体育運動大会」と、戦後1964年開催の「東京パラリンピック」の2つの大きなスポーツ大会を通して、当時の戦傷病者とスポーツの関係を紹介する。

また、しょうけい館の収蔵品の中から発見された「1964年東京パラリンピック」のカラー映画を上映します。東京パラリンピックのカラー記録映画は、現在確認されているものではこの作品しかありません。厚生省・国立箱根療養所(当時)が企画・製作した作品で、開会式や15の競技・種目の様子が詳細に記録されています。

入場無料

映像上映
 内容: 企画展に関連する映像を上映
 日時: 毎日 10:00～17:00
 場所: 1階証言映像シアター
 その他: 鑑賞自由・無料

記録映画
 「PARALYMPIC TOKYO 1964」
 カラー記録映画(28分)
 1日に7回、毎正時に上映します。

証言映像
 当館で収録した戦傷病者の証言映像より、企画展のテーマに沿った作品11タイトルを順次上映します。

記念講演会
 内容: 通訳ボランティアとして経験した1964年東京パラリンピックを振り返る
 講師: 吉田紗栄子氏
 日時: 3/15(日) 14:00～15:30
 場所: しょうけい館映像シアター

フロアレクチャー
 内容: 学芸員による企画展の展示解説
 日時: 3/29(日)・4/19(日)・5/3(日) 14:00～14:30
 場所: 1階企画展示室
 その他: 当日参加自由・無料

2020年3月10日(火)～5月10日(日)
 会場: しょうけい館1階企画展示室
 開館時間: 10:00～17:30(入館は17:00まで)
 休館日: 毎週月曜日(5/7/5/4(月)は開館)

当館は、戦傷病者とそのご家族が戦中・戦後に体験したさまざまな苦難についての証言・歴史資料・書籍・遺物を収集、保存、展示し、次世代の人々にその苦難を知る機会を提供する場としての施設として、平成18年3月に開館しました。
 しょうけい館という名称は、戦傷病者とそのご家族の苦難を知り、寄り添うという趣旨から、受け継がれ、蓄積された「苦難」という言葉の「承襲」という言葉からとっています。

お問い合わせ先: しょうけい館 03(3234)7821

④ ミニ展示の実施

第22回 「傷痍軍人会」とは～県傷の活動を振り返る～<北海道・東北地方編>

〈会 期〉令和元年5月8日(水)～7月15日(月)

〈内 容〉戦後、GHQによる占領政策が終了するのを待って、昭和27年日本傷痍軍人会の発足と同時に都道府県単位の傷痍軍人会が誕生した。
日本傷痍軍人会を中心として、戦傷病者の地位向上に尽力していった。
今回は、北海道や東北地方の傷痍軍人会に関する資料を展示し、活動の一端を紹介した。



第23回 「WVF」(世界歴戦者連盟)

〈会 期〉令和元年10月4日(金)～12月27日(金)

〈内 容〉WVF(世界歴戦者連盟)に関する日傷所蔵資料を展示した。昭和25年に設立された国際組織である、各国の傷病兵により二度と戦争を起こさないために、日本傷痍軍人会が昭和31年に加盟した経緯と、総会に2回参加した経緯を『日傷月刊』、各国の傷痍軍人会との交流を示す記念品や写真を紹介した。



第24回 「関係施設紹介展」～南風原が語る沖縄戦～

〈会 期〉令和2年1月5日(日)～3月8日(日)

〈協 力〉南風原文化センター

〈内 容〉南風原文化センター(沖縄県)が所蔵している南風原陸軍病院(壕)の資料を展示
南風原陸軍病院は、壕内に設けられここで行われた。戦傷病者の治療や看護の実態について、両館所蔵の資料(注射器、アンプル等の医療器具)や証言映像等により紹介した。



② 夏休み3館連携スタンプラリー

〈主催〉しょうけい館・昭和館・平和祈念展示資料館

〈期間〉 令和元年7月13日(土)から9月1日(日)
3館にてスタンプ台紙を配布

〈内容〉 しょうけい館、昭和館、平和祈念展示資料館の3館を巡り
3館のスタンプを集め終わった方に最後の館で3館の
オリジナルグッズを配布した。

〈参考〉 各館オリジナルグッズ
・しょうけい館……………救急セット
・昭和館……………オリジナルノート
・平和祈念展示資料館……筆箋

〈3館合計参加人数〉

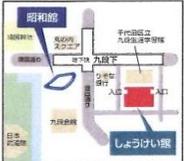
スタンプ台紙配布枚数

9, 276枚 (前年度7,785枚)

3館スタンプ完了参加賞配布数

1, 040組 (前年度1,214組)

昭和館
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1
TEL 03-3222-2577
[九段下駅]4番出口徒歩1分
・休館日：月曜日、7/16(火)、8/13(水)
ただし、7/15(月)、8/12(月)は開館
・開館時間：10:00～17:30
(入館は17:00まで)
・入場料：常設展示室のみ有料
(中学生以下無料)



しょうけい館
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-13
ツカキスクエア 九段下
TEL 03-3234-7821
[九段下駅]6番出口徒歩1分
・休館日：月曜日、7/16(火)、8/13(水)
ただし、7/15(月)、8/12(月)は開館
・開館時間：10:00～17:30
(入館は17:00まで)
・入場料：無料

・[九段下駅] (都営新橋線)
・[新宿駅]のりかえ
・[都庁前駅] (都営大江戸線)

平和祈念展示資料館
〒163-0233 東京都新宿区西新宿2-6-1
新宿住友ビル33階
TEL 03-5323-8709
[都庁前駅]徒歩3分
・休館日：8月25日(日)
・開館時間：9:30～17:30
(入館は17:00まで)
・入場料：無料




③ こども霞が関見学デー

〈会場〉 厚生労働省 仮設会議室

〈期間〉 令和元年8月7日(水)～8日(木)

〈内容〉

「水木しげるさん・上田毅八郎さんを通じて戦傷病について知ろう」と題して常設展の内容をパネルにしたものを展示、戦傷病者であり漫画家・妖怪研究者として有名な「水木しげる」さんをパネル図書、映像で紹介。海洋船舶画家として有名な「上田毅八郎」さんのパネル、絵画作品を展示。また、来場した子どもたちには、義足や乃木式義手体験や、水木作品の鬼太郎やねずみ男や、上田作品の船等のぬり絵体験を楽しんでもらった。

〈来場者数〉 425人(前年度 440人)



ぬり絵体験



義手の体験



展示



来場

(3) 上映会の開催

① 証言映像定期上映会の開催

「戦傷病者の証言」を地域別に分けて3回上映

定期上映会 ①北海道・東北地方編

〈会 期〉 令和元年5月8日(水)～7月15日(月)

〈内 容〉 北海道・東北地方証言映像22本を上映。

定期上映会 ①関東地方編

〈会 期〉 令和元年10月4日(金)～12月27日(金)

〈内 容〉 関東地方証言映像26本を上映。

定期上映会

〈会 期〉 令和2年1月5日(日)～3月8日(日)

〈内 容〉 ミニ展関連～沖縄戦での受傷～
沖縄証言映像9本を上映。

② 夏の企画展「証言映像上」

〈期 間〉 令和元年7月17日(水)～9月8日(日)

〈内 容〉 「病院船～戦傷病者を還送した船～」

病院船で還送された戦傷病者やその家族の証言映像を
中心に16人の証言映像を上映。

③ 平和祈念展示資料館連携企画

〈期 間〉 令和元年9月25日(水)～10月1日(火)

〈会 場〉 九段生涯学習館2階 九段ギャラリー

〈内 容〉 九段生涯学習館で開催された平和祈念展示資料館 特別展示
「シベリア抑留絵画展 ～冬と夏を描く～」の連携企画として、
シベリア抑留を経験された戦傷病者の手記などの関連図書を、
2階の特設コーナーで期間中毎日紹介。

(4)貸出キットの利用

① 貸出キットの利用

貸出先：千代田区役所1階 区民ホール

利用目的：戦傷病者の労苦や原爆、戦争の悲惨さを伝える展示会を開催し、区民等に改めて平和について考える機会を提供するため。

貸出期間：夏の平和イベント平和展示会 令和元年8月7日～令和元年8月23日（展示期間令和元年8月8日～8月22日）

貸出資料：展示パネルA2サイズ8点セット

期間中の入場者：2,101人

千代田区役所1階区民ホール



② 利用者団体 3件貸出 平成31年4月～令和2年2月末現在

(平成30年度貸出4件)

①千代田区 地域振興部 国際平和・男女平等・人権課

②三鷹市役所 企画部企画経営課 ③秋草学園福祉教育専門学校

③ 〈貸出キット〉 常設展示室で展示している内容をコンパクトにまとめたもの

【構成内容】

①展示パネル30点(解説パネルと関連パネルで構成)

*戦争とその時代 *戦地での受傷病と治療 *本国への搬送・帰還後の労苦 *戦後の労苦

②実物資料1点 *義足

③展示パネル8点

*戦中の労苦 *戦争とその時 *受傷 *救護・収容 *戦時下の療養生活 *戦後の労苦
*終戦直後の労苦 *傷病とともに生きる

④箱根療養所パネル7点

*箱根式車椅子と子どもの作文 *箱根病院の変遷 *傷兵院と箱根療養所の入所者数
*戦中の療養 *戦後の療養 *入所者を見守った書画 *入所者の支え

⑤証言映像DVD 1点



3 資料収集・保存

(1) 新規証言映像の収録

- ・令和元年度は11月に兵庫県西宮市で1件収録し、令和2年3月までに編集を完了し、4月より公開予定
- ・館内上映の証言映像公開数は197本となっている。

(令和2年2月末現在)

(2) 実物資料の収集

寄贈では、戦傷病者本人が最後まで所有していた資料(戦傷病者手帳、恩給診断書などの証明書類、出征時の日章旗など)を受け入れました。

購入では、日中戦争期の傷痍軍人の写真帳、長野県の村役場で作成された傷痍軍人台帳などを入手しました。

| | |
|----------------------------------|---------|
| 平成30年度末までの登録数(内、平成24年度まで、9,060点) | 30,496点 |
| 令和元年度の資料寄贈(令和2年2月末で) | 354点 |
| 令和元年度の資料購入(令和2年2月末で) | 18点 |
| 館所蔵資料総合計(令和2年2月末現在) | 30,868点 |

* 平成30年12月から令和元年9月の受け入れ資料については、令和元年9月29日より10月3日まで燻蒸を実施した。

(3) 図書資料の収集

寄贈では、戦傷病者や従軍看護婦の体験記、研究者からの研究成果物などを受け入れました。

購入では、『昭和2年支那争乱事件海軍医務衛生記録』など衛生史に関するものや、『第四回日本医学会軍陣医学部会誌』など軍陣医学に関するものなどを中心に入手しました。

| | |
|----------------------------------|---------|
| 平成30年度末までの登録数(内、平成24年度まで、7,902点) | 10,050点 |
| 令和元年度の資料寄贈(令和2年2月末で) | 45点 |
| 令和元年度の資料購入(令和2年2月末で) | 78点 |
| 館所蔵図書資料総合計(令和2年2月末現在) | 10,173点 |

4 普及・広報

(1) 広報用ポスター・千代田区コミュニティバス掲示

- ・ しょうけい館の知名度をたかめるために、千代田区の地域福祉バス「かざぐるま」車内広告を実施している。
- ・ 千代田区役所を起点として、区内4ルートを巡回するコミュニティバス6台へしょうけい館のシンボル展示を用いたデザインの広告の掲示をしています。



地域福祉バス「かざぐるま」ポスター

(2) ホームページ・情報媒体利用

- ・ 「東京メトロ沿線だより」、「月刊厚生労働」、「広報千代田」、「千代田区観光協会」、「東京都博物館協会」、「日本歴史学会」、「インターネットミュージアム」、「イベントバンク」等の情報検索サイトを活用し、令和元年度は地方展、企画展や定期上映会等について、それぞれの媒体に対しての情報の提供回数を増やし、新鮮な情報提供に努めた。
- ・ ホームページ及び媒体は、更新を27回・媒体を29回掲載した。(令和2年2月末現在)
- ・ 「館だより」は、令和2年2月末まで(22回)更新をした。また、団体見学の事前申し込みに「次世代の語り部による講話」のプログラムを新設し、来館促進に努めた。
- ・ 年間を通して、地下鉄東西線九段下駅ホームへ電飾看板を掲示して広報を図った。なお、令和元年度は、九段下駅コンコースの工事で、企画展時のポスター変更は出来ませんでした。



東西線九段下駅ホーム

文化

戦争の記憶 次世代へ

17日から福島で3館企画展

戦中・戦後の人々の暮らしや戦傷者の体験などを紹介している昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館(いずれも福島市)による同企画展は十七日から二十七日まで、福島市のとうほう・みんなの文化センター(県文化センター)で開かれる。終戦から七十四年を経た現在、戦争体験者は高齢化し、記憶の風化が顕著となっている。戦争の記憶を次の世代へと伝えるのが目的。昭和館の林美和学芸員が企画展の具合いを紹介する。

◆昭和館

戦中・戦後の暮らしや戦傷者の体験などを紹介している昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館(いずれも福島市)による同企画展は十七日から二十七日まで、福島市のとうほう・みんなの文化センター(県文化センター)で開かれる。終戦から七十四年を経た現在、戦争体験者は高齢化し、記憶の風化が顕著となっている。戦争の記憶を次の世代へと伝えるのが目的。昭和館の林美和学芸員が企画展の具合いを紹介する。

【戦中・戦後の暮らし】戦中・戦後の暮らしや戦傷者の体験などを紹介している昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館(いずれも福島市)による同企画展は十七日から二十七日まで、福島市のとうほう・みんなの文化センター(県文化センター)で開かれる。終戦から七十四年を経た現在、戦争体験者は高齢化し、記憶の風化が顕著となっている。戦争の記憶を次の世代へと伝えるのが目的。昭和館の林美和学芸員が企画展の具合いを紹介する。

【戦中・戦後の暮らし】戦中・戦後の暮らしや戦傷者の体験などを紹介している昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館(いずれも福島市)による同企画展は十七日から二十七日まで、福島市のとうほう・みんなの文化センター(県文化センター)で開かれる。終戦から七十四年を経た現在、戦争体験者は高齢化し、記憶の風化が顕著となっている。戦争の記憶を次の世代へと伝えるのが目的。昭和館の林美和学芸員が企画展の具合いを紹介する。

【戦中・戦後の暮らし】戦中・戦後の暮らしや戦傷者の体験などを紹介している昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館(いずれも福島市)による同企画展は十七日から二十七日まで、福島市のとうほう・みんなの文化センター(県文化センター)で開かれる。終戦から七十四年を経た現在、戦争体験者は高齢化し、記憶の風化が顕著となっている。戦争の記憶を次の世代へと伝えるのが目的。昭和館の林美和学芸員が企画展の具合いを紹介する。

【戦中・戦後の暮らし】戦中・戦後の暮らしや戦傷者の体験などを紹介している昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館(いずれも福島市)による同企画展は十七日から二十七日まで、福島市のとうほう・みんなの文化センター(県文化センター)で開かれる。終戦から七十四年を経た現在、戦争体験者は高齢化し、記憶の風化が顕著となっている。戦争の記憶を次の世代へと伝えるのが目的。昭和館の林美和学芸員が企画展の具合いを紹介する。

【戦中・戦後の暮らし】戦中・戦後の暮らしや戦傷者の体験などを紹介している昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館(いずれも福島市)による同企画展は十七日から二十七日まで、福島市のとうほう・みんなの文化センター(県文化センター)で開かれる。終戦から七十四年を経た現在、戦争体験者は高齢化し、記憶の風化が顕著となっている。戦争の記憶を次の世代へと伝えるのが目的。昭和館の林美和学芸員が企画展の具合いを紹介する。

【戦中・戦後の暮らし】戦中・戦後の暮らしや戦傷者の体験などを紹介している昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館(いずれも福島市)による同企画展は十七日から二十七日まで、福島市のとうほう・みんなの文化センター(県文化センター)で開かれる。終戦から七十四年を経た現在、戦争体験者は高齢化し、記憶の風化が顕著となっている。戦争の記憶を次の世代へと伝えるのが目的。昭和館の林美和学芸員が企画展の具合いを紹介する。

飛行機も

軍艦も

弾丸も

たのむぞ石炭



高橋善人氏 ポスター「たのむぞ石炭」 1944(昭和19)年



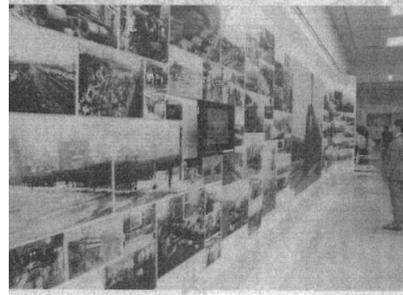
佐藤清氏「果てしなき道」

「写真配置こだわり」

児童ら壁新聞製作



●自分たちが製作した壁新聞などに見る児童 ●満州(現中国東北部)で撮影された写真が並ぶ平和祈念展示資料館の企画展



来年の東京五輪に向け、戦後復興のシンボルとなった1964(昭和39)年の東京五輪を振り返る企画展「東京2020応援プログラム 学ぼう、感動を！」が17日、福島市のとうほう・みんなの文化センター(県文化センター)で始まった。

県北の小学校など62校の児童がオリンピック・パラリンピックについて調べた壁新聞や、東京五輪マラソンの銅メダリスト内谷幸吉(須賀川市出身)、「オリンピック・マーチ」の作曲者古関裕而(福島市出身)らの貴重な資料が展示されている。

来年開館50周年を迎える同文化センターの記念イベントとして、県文化振興財団が主催した。小学生の壁新聞のうち、競技会場となるあづま球場に近い庭

壁新聞や、東京五輪マラソンの銅メダリスト内谷幸吉(須賀川市出身)、「オリンピック・マーチ」の作曲者古関裕而(福島市出身)らの貴重な資料が展示されている。

来年開館50周年を迎える同文化センターの記念イベントとして、県文化振興財団が主催した。小学生の壁新聞のうち、競技会場となるあづま球場に近い庭

塚小5年生13人は五輪のシンボルマークや歴史、競技について写真を交えて紹介する新聞を製作した。

会場を訪れた同校5年の斎藤周真君は「写真配置にこだわった。来年の東京五輪を楽しみにしている」と話した。

会場では、東京都の昭和館、しょうけい館(戦傷者者史料館)、平和祈念展示資料館の三つの国立施設の企画展が同時に開催。本県に關する資料を中心に、戦中、戦後を生きた県民らの

生活や労苦を紹介している。

27日まで。いずれも入場無料。時間は午前9時30分〜午後5時。問い合わせは県歴史資料館(電話024・534・9193)へ。

企画展開催に先立ち、合同オープニングセミナーが行われ、昭和館の羽毛田信吾館長、県文化振興財団の大沼博文理事長があいさつした。福島民友新聞社の中川俊哉副社長が出席した。

- 観覧ガイド
- ▶会期—17日〜27日
 - ▶会場—福島市、とうほう・みんなの文化センター(県文化センター)
 - ▶時間—午前9時30分〜午後5時(最終入場午後4時30分)
 - ▶観覧料—無料
 - ▶主催—昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館
 - ▶共催—県文化振興財団
 - ▶問い合わせ—県歴史資料館 024(534)9193

氏ら芸術分野で活躍した作家の作品も紹介する。

◆平和祈念展示資料館

平和祈念展示資料館は、さきの大戦における兵士が戦争の記憶に心を保持つづきかけとなれば幸いです。

三館の展示には、昭和二十年八月十五日を過ぎてもおぼろげな戦争の苦しみと痛み、そしてそれを乗り越えようとする日本人の姿が表現されている。この催事が戦争の記憶に心を保持つづきかけとなれば幸いです。

5 語り部育成事業

語り部の育成

【第1期生】平成28年度より3か年の研修を修了し、講話原稿の発表、審査を得て修了式を行なった。

9月7日(土)に修了式を開催し、修了証を授与し、委嘱も行なった。

また、第2期生、第3期生を交えての合同懇談会を行なった。修了後は「次世代の語り部委嘱証」を発行し、館の語り部として活動している。

(詳細は20項)

【第2期生】自由テーマによるミニ原稿講話の発表や、証言映像をもとに、ミニ講話の発表を実施、演習形式で問題点や課題となる部分を確認した。

また、外部講師による、語り部の講話聴講なども実施のうえ、

9月より講話原稿に着手している。

【第3期生】証言映像視写・講義

基礎研修から証言映像の視写と講義を実施、部位別の証言映像を試写したうえで、証言者の労苦等を紹介。

9月よりミニ講話原稿に着手している。



第1期生 修了式



第2期生研修



第3期生研修

6 語り部活動事業

① 戦後世代の語り部講話

第1期生は3年間の研修を修了し、審査会をへて委嘱を受け「戦後世代の語り部」として10月から語り部講話活動を始め、団体見学者のリクエストによって講話を実施している。

証言映像をもとに、体験記や関連情報を含め、総合的に講話原稿としてまとめたものを語る。

(語り部講話風景)



語り部講話活動状況一覧表(令和2年2月末現在)

| NO | 日付 | 団体名 | 人数 | 語り部担当 | 備考 | |
|----|------------|---------------------|----|--------|--------|---|
| 1 | 令和元年10月25日 | 千葉明德短期大学保育創造科 | 15 | 山本 有紀乃 | 館内 | |
| 2 | 10月26日 | あらかわ遊園スポーツハウス | 80 | 保坂 弘子 | 派遣講話3回 | |
| 3 | 10月29日 | 東京都杉並区立神明中学校1年生 | 15 | 塚原 浩太郎 | 館内 | |
| 4 | 11月1日 | 神奈川県相模原市立大野南中学校2年生 | 午前 | 20 | 保坂 弘子 | 〃 |
| | | | 午後 | 40 | 塚原 浩太郎 | 〃 |
| 5 | 11月5日 | 栃木県那須烏山市遺族会 | 40 | 田端 萌夏 | 〃 | |
| 6 | 11月8日 | 桐朋女子中学校3年生 | 40 | 山本 有紀乃 | 〃 | |
| 7 | 11月17日 | 東京土建一般労働組合練馬支部 | 30 | 小暮 倫子 | 〃 | |
| 8 | 11月28日 | 千葉県鎌ヶ谷市立第四中学校1年生 | 60 | 大野 真理子 | 〃 | |
| 9 | 12月18日 | 神奈川県湘南学園中学校3年生 | 5 | 榎本 瞳 | 〃 | |
| 10 | 令和2年1月15日 | 和洋九段女子高等学校1年生 | 97 | 保坂 弘子 | 館内講話3回 | |
| 11 | 1月17日 | 陸上自衛隊衛生学校 (世田谷) | 16 | 大野 真理子 | 館内 | |
| 12 | 1月23日 | 東京都東村山市立東村山第三中学校2年生 | 26 | 小暮 倫子 | 〃 | |
| 13 | 1月24日 | 東京都町田市立南大谷中学校2年生 | 12 | 大野 真理子 | 〃 | |
| 14 | 1月26日 | 静岡県静岡史跡を訪ねる会 | 20 | 山本 有紀乃 | 〃 | |
| 15 | 1月28日 | 陸上自衛隊衛生学校 (世田谷) | 35 | 小暮 倫子 | 〃 | |
| 16 | 1月29日 | 陸上自衛隊衛生学校 (武蔵野) | 27 | 田端 萌夏 | 〃 | |
| 17 | 1月30日 | 東京都東村山市立東村山第一中学校2年生 | 午前 | 22 | 瀧澤 美和子 | 〃 |
| 18 | 〃 | 千葉県 勤医会 東葛看護専門学校 | 午後 | 9 | 瀧澤 美和子 | 〃 |
| 19 | 2月16日 | 首都圏建設産業ユニオン | 20 | 大野 真理子 | 〃 | |
| 20 | 2月20日 | 東京都品川区立芳水小学校6年生 | 72 | 山本 有紀乃 | 館内講話2回 | |

No1~20 館内19団体 + 派遣1団体 = 合計20団体 人数701名 (令和2年2月末現在)

7 情報システムの運用管理

(1) システム運用管理

平成30年度に、老朽化した既存情報システムを新規に再構築し、業務の効率化と強化を図り、高い安定性と操作性を実現するとともに、「あいまい検索」や「しぼりこみ検索」の新たな検索方法を加えることにより操作性の向上を図ったことより、利用しやすくなった。

来館者に対しては、情報検索コーナーに記載した当館所蔵の実物資料等情報について、当館にて整理・考証の済んだ情報をデータ化して提供している。提供する情報については、来館者が検索して、選択したものを閲覧する形式をとっている。

1階の情報検索コーナーに設置している検索端末機の操作は、画面の案内にしたがって画面を指で触れるだけで必要な情報が表示されるタッチパネル方式を採用していることから、特に年輩の利用者には好評であった。

(2) データベース構築・運用管理

来館者閲覧用及び記録資料のデジタル化により、次に記載した情報についてデータベースを構築して稼働しており、館が所有する戦傷病者記録・実物資料・文献(文書・図書)資料・証言映像の関連検索方法や関連事項のリンク方法等を検討精査を進め、情報管理についてもデータベースを用いて一括管理が行えるシステムと、利用者の端末画面で利用しやすくなった。

- ①館収蔵実物資料情報
- ②館収蔵戦傷病者の記録情報
- ③館収蔵図書文献情報
- ④館制作証言映像情報

(3) ホームページ運用管理

ホームページでは、しょうけい館の概要、各事業の紹介及び企画展の開催案内等を行い、常に館の広報に努め、内容の更新については原則月2回以上の更新の他、必要に応じて随時更新を行っており、来館者への来館促進を図った。

また、図書検索機能の復活 フリーワード検索のほか、書名、著者名、出版者(社)、出版年、ジャンル、分類番号にて検索ができことや、中学生・高校生向け展示パネルの貸出を、令和元年11月に開始した。

8 友の会

・友の会について

加入登録者数： 1, 054人（令和2年2月末現在）

・友の会通信第8号・・令和元年10月に会員の方へ発送

・友の会通信第9号・・令和2年 2月に会員の方へ発送

*** 友の会会員は日本傷痍軍人会と妻の会会員**



9 しょうけい館における令和元年度研修の実施報告

日々の就労においてストレスを感じる場面が少なからず個々に持っていることから、令和元年度の研修ではストレスに対する理解を深め、自身のストレスに気づき、対処する手法を学んだ。

【研修の概要】

研修名：セルフ・コントロール研修

主催：株式会社ムラヤマ

会場：豊洲シビックセンター 第2研修室

会期：令和元年8月26日(月)～9月2日(月)

参加者：対象者7名

- 目的：①不規則、繁忙期のある業務の中で、自らの健康意識を高め、ストレス対処ができる
②ハラスメントをしない、させない知識とスキルを学び活用できる。
③困ったときに、社内外の誰かに相談できる。

10 1階改修工事

- ・平成29年度からの1階改修工事は、3年間、今年度をもって完了しました。シアターヴの収容人員を増やした昨年度の工事に続き、団体を迎える入口の受付周辺を拡充しました。
- ・企画展示室に可動壁を設け、広さや高さなど展示機能を充実しました。大型の絵画等を展示できる専用レールを設置するなど展示の可能性が広がる空間としました。
- ・語り部講話を行うシアターには、調光可能な照明を設けるなど天井設備を整備しました。また、床面はフロアタイルで統一しました。

※ 資料-5の図面を参照ください



受付周辺（改修前）



受付周辺（改修後）



企画展示（改修前）



企画展示（改修後）

11 利用者アンケート(平成31年4月から令和2年2月末)

【10代】

- 戦争というものがあまりに悲惨なもので、戦争は過酷とわかっていたのに心がいたいです。
- 自分はまだまだ戦争への知識が未熟であるということが分かりました。戦争の悲劇をもっと多くの人達に知ってほしいと思います。
- 平和の大切さが分かりました。戦争の怖さや苦しみが資料で伝わってきました。
- 戦争で病気や大きい怪我をした人達の戦後を知ることができましたが、応急処置止血をしないとイケなくて、持っているもので止血をしたりしていることも学ぶことができました。麻酔なしでの手術など、とても大変だったことが分かりました。
- 私は戦争についてほとんど知らなかったもので、戦うことによって傷を負う人がいて、それを抱えて生きていく人もいるということを知り、その人の思ったことや感じたこと、そのものは分からないけれども、とても心に深くきました。
- 最初は、戦争のことに興味を持ってここに来ました。戦争に対しての考え方が、「沢山の人が亡くなった」、「被害が大きい」というようなことでしたが展示を見てから、今でも苦しんでいる人がいることを知り改めて戦争をしたくないと思いました。
- 授業で聞いたことがない言葉や、その時の生活について詳しく説明していただいたので、すごく分かり易かったし、とても勉強になりました。
- 戦争での被害の大きさが今まで知っていたよりも、深刻で大きなものだったという事を知ることが出来ました。だから戦争に対する考えがもっと嫌な感じが大きくなりました。しょうけい館に来て戦争のことについて知る事ができて良かったです。

【20代】

- 受傷した時に実際につけていた眼鏡や帽子、靴などがあって、戦争の激しさを目のあたりにして驚きました。
- 医師を志す者として、忘れられない思い出となった。戦争の苦しみがここまでとは正直思っておらず驚いた。
- 戦地での苦しい状況がある一方で、生き残りその戦況を伝える人がいるというのは、非常に貴重なことと感じました。
- 昔は、補給に関して十分ではなく医薬品等の補充が間に合わず麻酔なしで摘出、切断を行っていた。今は何でも揃う時代なので当たり前思わず感謝。
- 今まで戦争に関しては、テレビでしか見たことがなく、そこまで知識が多くなかったので、今回は実際に戦場に向かって命からがら帰ってきた人の体験やその時使っていた物品等を見ることが出来てよりいっそう戦場の大変さを感じる事が出来たと思う。戦争が激しくなるにつれて、多くの人が倒れ、またそれによって人を集めてという悪状況がずっと続いて結局多くの人がこの戦争で亡くなりました。現場では戦傷だけでなく戦病で亡くなった人が多かったと聞きました。
- 戦時中だけでなく戦後もずっと苦しんでいた人々を知って、戦争はいけないと強く思いました。
- 私のような戦争を知らない人々が、多数を占めるようになった今こそ、このような施設を人々に知ってもらわなければならないと思う。
- 現在、大学で「戦争体験の継承」について研究しています。その中でも若い世代に知ってもらうために、マンガ・アニメによるアプローチ方法を考えます。大変勉強になりました。

【30代】

- 広島大で原爆文学、とくに長田新氏の「原爆の子」を研究している。水木しげる氏の漫画「硫黄島からの手紙」「キャタピラー」などの映画を今一度見直してみようと思った。時間がなく見られない資料もありまた来ます。
- 特にジオラマが印象的でした。広島原爆資料館は撤去してしまいましたが、しょうけい館はこれからも残してください。展示はとても分かり易く小中高生に見てほしいと思いました。
- 戦傷病者にフォーカスをあてての展示をあまり他の施設では、みれないと思ったのですごく勉強になった。
- 当時の様子をわかりやすく展示しているとともに、説明も具体的でイメージしやすかった。戦時のことを知ることで、今後の生活も考えていきたいと感じた。
- 戦傷病者という切り口で戦争の悲劇について知る事ができ、大変貴重でした。戦後の労苦へも視線を向けることが出来た。
- 戦中のことだけでなく、ずっと続いていて生きる事、戦争についてよく考え感じることができました。
- 戦争の記録は良く目にしますが、戦争で負傷した人たちの、その後の生活まであまり考えたことがなかったので、貴重な経験になりました。
- 人の生死に関わる部分にクローズアップされているので、自分のことのように感じた。国との関わり方を常に考え、このようなことが二度と起こらないようにするのが、今生きる私たちの務めだと改めて感じた。
- 氷川丸の事を初めて知った。戦争での受傷の大変さが良く分かった。結婚して子どももいるが、自分が今、障害を持ったらどうなるのか、家族に迷惑をかけるなど、いろいろ考えさせられた。

【40代】

- 図書資料の種類が豊富で図書スペースの利用も快適でした。
- 心の病気でしばらく仕事を休んでいたが、ここに記録された皆様と自分を比べて恥じ入るばかりです。
- ドラマなどで見て、何となく知っているように思っていたけれど、やはり戦争は恐ろしいと改めて思いました。辛く苦しいだけと思いなかなか手がのびない関連の書籍も、手に取ってみると、水木さんの物などは少ししか見ていないけれど、入りやすく興味がひかれ、また読んでみたいと思いました。しょうけい館の存在自体知らなかったもので、中高生の旅行などで、見てくれたらいいなと思った。
- 戦地で負傷して激痛を乗り越え、一命をとりとめてからの生活の苦難について知れば知るほど胸が苦しくなった。
- 亡くなった時が終戦だという言葉がズシリと来ました。
- 高度経済成長期における戦傷病者のご苦勞が良く分かる展示内容だった。
- 母の父と祖父が沖縄戦で戦死しました。その苦勞は小さい時から聞いていたのですが、常設展示を見てより一層戦時中の様子が分かりました。ぜひ、たくさんの方に見ていただきたいと思いました。
- 今まで知ったつもりになっていた事柄を、多くの証言映像によって一新していただいた気持ちです。説明を頂き考えさせられた時間でした。
- 戦争は、二度とやってはいけないと強く感じた。

【50代】

- 戦中、戦後と苦勞された戦傷病者の方々と世間の皆様、その事を忘れてしまっていることを、伺うたびに「忘れてはいけない」と強く思っています。
- 死んだ祖父も戦争でけがをしたので、生きていた時に話を聞いておけば良かったと思いました。展示が分かり易かったです。
- 戦争で傷を負った方々の苦勞を改めて知る事ができました。先日、外国の映画で戦争映画を見ました。二度とあってはならないと思い知らされました。
- 水木さんの展示、私の履歴書とも、とても良かったです。常設展示室はとても生々しく迫力があつた。
- 証言映像には、グツとくるものがあった。戦争は本当に悲惨で二度とあってはならない、生命が軽く扱われているのに腹がたつた。
- 戦争による傷病者の視点で考えたことがなかったので、生きていなくてはならないという気持ちが強く伝わってくるのを感じました。広め伝えたいと思います。
- 展示物もリアルでそれだけに伝わるものがありました。
- イメージやフィクションで作られた「戦争」が実際はどのようなものであつたか、あらためて知る事ができました。
- 知らないことが多く勉強になりました。戦争を知らない多くの人や国会議員にも広く知ってもらいたいと感じました。
- 今の私たちの恵まれた平和な生活とは、戦争で苦勞された人々のおかげであることをあらためて感じた。
- 展示方法が素晴らしく非常に分かり易かったです。負傷した方のご苦勞は想像を超えており、もっとメディアで取り上げるべきだと思いました。

【60代】

- 子供の頃、駅や神社等で戦傷病者の方がアコーディオン等を奏でていらつしゃるのを見て、母親から小銭をもらい、渡した経験を思い出しました。
- わたしが幼い頃、駅で白い着物を着て足のない男の人をよく見かけました。両親に聞いても戦争でけがをした人、あまり見てはいけないといわれたので「ずう〜と？不思議だった。館へ来て、戦病者の方がどんな苦勞の上にかくましく生きて行かれたか・・・本当に皆様の苦勞がしのべれます。恵まれた今の若い人に自殺したいとか、生きる目標がないなんて言って欲しくない。館に来ることが出来て良かったです。
- 「シンガポール日本人基地」と「昭南時代(中国語)」は初めて見ました。ここでしか見れない「本」で関心しました。ここでは、背筋が、シャンとする思いです。
- 野戦病院ジオラマが印象的でした。私のおじさんにあたる人も、足にうじがわいて、防空壕においてけぼりにされ家族はその後、逃げきりましたがおじさんはどうなったのかわかりません。私は沖縄出身です。
- 館の存在を知らなかった。遺族の方や戦傷病者の方、被災者の方、戦争で多くの方の苦勞が良く分かりました。
- 74年前に理不尽な戦争に駆り出され、将来に希望をもっていた若者が大勢亡くなった。今、生きているものとしてこの事実をどのように伝えていくべきか？
- 初めてきました。とても感慨深かったです。とにかくショッキングで、今この平和な時代に生まれて良かったです。
- 展示が分かり易くて良かったです。
- 戦傷病者の方の言葉を聞いて、本当に辛い日々を送ってきた事が分かり、今の平和が長く続くように戦争は二度としてはいけないと強く思いました。
- 展示を見て、戦争が風化されない様、二度と再び戦争をしない、させない世の中にしていかなければならないと思った。
- 平和な時代に生まれ幸せの時代ですが、これからの日本がどうなるかを考えると、孫やその親を戦時中にあてはめると辛いです。

【70代】

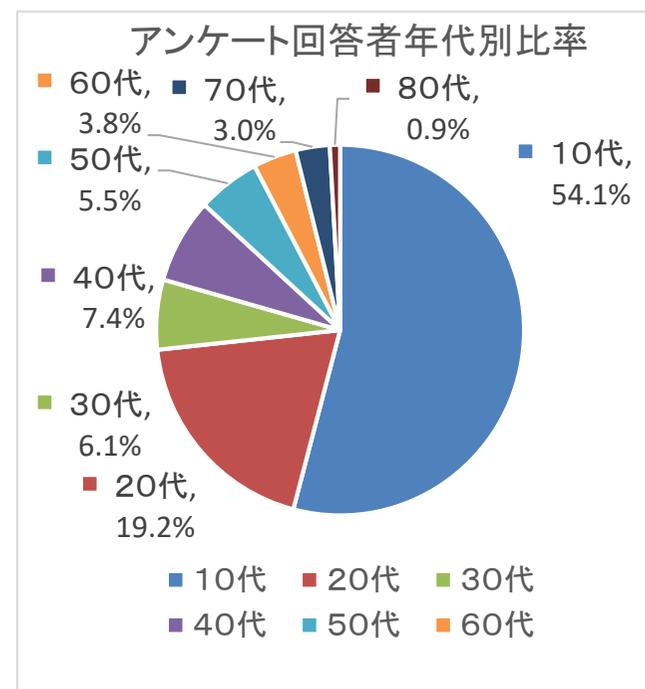
- 先輩の皆様に申し訳ありませんが戦後生まれの小生にとって何が一番幸せかと聞かれたら「戦争に行かなかったこと」と答えます。
- “戦争は絶対ダメ”二度と戦争を起こしてはいけません。戦争を振り返っての諸先輩方の文章は素晴らしい物です。
- 語り部が分かり易く、のめり込みそうで貴重な体験をする事ができました。子供の頃がよみがえり、悲惨さを感じ二度と戦争は起こさないと感じた。
- 戦傷病者と援護のあゆみがすごかった。
- 昭和20年満州の恵河で生まれ日本に引揚げてきました。汽車のでなくなった子どもなど、両親から聞いていました。今でも引揚げてきた記憶です。
- 戦傷病者の現実は分かりにくいですが、改めて勉強になりました。若い人たちにも戦争とは心も体も痛めると言うことを伝えたい。
- 平和の大切さを感じました。
- 今の平和、数十年前に戦争があった(悲惨な)、後世に伝えていなくては・・・
- 時代背景をまじえて、戦争の悲惨さ決して起こらないことを改めて学ばしていただきました。忘れないで、今後も勉強したいと思います。
- 戦傷病者の方を中学生の頃でも、まだ目黒不動の縁日で見かけた世代です。今日、改めてその時のことが理解できました。

【80代】

- 何度も来館したいです。年齢問わず多くの人に来館を誘いたいです。
- 今後も戦争の愚かさを象徴して進めて欲しい、応援しています。
- 二度と戦争は無くそう。
- 絶対戦争のむなしさ、戦争の避ける社会にしなくてはと思った。

アンケート回答者年代別比率・アンケート総数449件 (令和2年2月末現在)

| 年代 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 |
|----|-------|-------|------|------|------|------|------|------|
| 比率 | 54.1% | 19.2% | 6.1% | 7.4% | 5.5% | 3.8% | 3.0% | 0.9% |
| 件数 | 256 | 91 | 29 | 35 | 26 | 18 | 14 | 4 |



アンケート用紙は 1階 フロアーに設置しています。

令和2年度しょうけい館事業計画案

目次

| | |
|--|---|
| I. 令和2年度しょうけい館運営事業予算案 | 1 |
| II. 運営の基本的考え方 | |
| 1. 運営の基本指針と今年度の運営指針 | 2 |
| 2. 戦後世代で語り継ぐ | 2 |
| (1) 「語り部」活動の拡大 | 2 |
| (2) 証言映像は家族（子、孫）の証言へ | 2 |
| 3. より若い人に伝える | 2 |
| (1) 団体見学者への語り部講話、展示解説のさらなる浸透 | 2 |
| (2) 身近なテーマでの企画展の開催 | 2 |
| 4. より分かりやすく伝える | 3 |
| (1) 先の大戦等の情報提供機会の増大 | 3 |
| III. 令和2年度事業計画案 | |
| 1. 展示関連事業 | 3 |
| (1) 企画展 | 3 |
| (2) ミニ展示 | 4 |
| (3) 3館連携企画展 | 4 |
| 2. 資料保存関連事業 | 4 |
| (1) 資料の寄贈 | 4 |
| (2) 資料の購入 | 4 |
| 3. 教育啓発関連事業 | 4 |
| (1) 次世代の語り部事業 | 4 |
| (2) 証言映像 | 7 |
| 4. 情報センター関連事業 | 7 |
| (1) データベース・検索システム | 7 |
| 5. 普及・広報事業 | 7 |
| (1) パブリシティ活動 | 7 |
| (2) しょうけい館ホームページ | 7 |
| (3) しょうけい館友の会 | 7 |
| (4) 配布資料・ポスター | 8 |

令和 2 年度 事業計画案

I. 令和 2 年度 しょうけい館運営事業予算 (案)

| | 令和 2 年度 | 令和元年度 | 対前年度比 |
|----------------|-------------------|-------------------|------------------|
| 総額 | 176,854 千円 | 184,338 千円 | △7,484 千円 |
| (内訳) | | | |
| 運営経費 | 108,104 千円 | 108,011 千円 | 93 千円 |
| 人件費等 | 22,013 千円 | 21,928 千円 | 85 千円 |
| 管理諸費等 | 86,091 千円 | 86,083 千円 | 8 千円 |
| 事業経費 | 57,056 千円 | 67,032 千円 | △9,976 千円 |
| 人件費等 | 22,796 千円 | 22,713 千円 | 83 千円 |
| 資料収集等関係費 | 4,553 千円 | 4,994 千円 | △441 千円 |
| 展示保守等経費 | 4,069 千円 | 4,069 千円 | 0 千円 |
| 運営要員経費 | 2,100 千円 | 2,100 千円 | 0 千円 |
| 企画展製作経費 | 2,099 千円 | 2,097 千円 | 2 千円 |
| 小中学生用展示解説書製作経費 | 505 千円 | 505 千円 | 0 千円 |
| 地方展の開催経費 | 3,344 千円 | 3,344 千円 | 0 千円 |
| 若年世代来館促進経費 | 950 千円 | 950 千円 | 0 千円 |
| 資料データベース更新経費 | 9,300 千円 | 9,300 千円 | 0 千円 |
| 証言映像収録費 | 1,013 千円 | 1,261 千円 | △248 千円 |
| 語り部育成事業経費 | 2,074 千円 | 3,044 千円 | △970 千円 |
| 語り部活動経費 | 2,978 千円 | 1,855 千円 | 1,123 千円 |
| 展示替え経費 | 0 千円 | 10,800 千円 | △10,800 千円 |
| 広報・催事用グッズ作成経費 | 1,275 千円 | 0 千円 | 1,275 千円 |
| 消費税 | 11,694 千円 | 9,295 千円 | 2,399 千円 |

Ⅱ.運営の基本的考え方

1. 運営の基本指針と今年度の運営指針

- ・「戦中・戦後の労苦体験の次世代への継承」という運営の基本指針、及び、昨年度の運営指針である、以下の3項目は今年度も継続していきます。
 1. 戦後世代で語り継ぐ
 2. より若い人々へ伝える
 3. より分かりやすく伝える
- ・令和2年度は、戦後75年を経過することとなり、加えて東京オリンピック・パラリンピックの開催年でもあります。上記3つの運営指針を軸にして、節目となるこの2つの事業等のテーマとの連携を図り、運営活動を計画しています。
- ・また、コロナウイルス感染状況に応じ、今年度の活動は柔軟に対応できるように計画しておくことが現段階では重要と考えています。

2. 戦後世代で語り継ぐ

(1) 「語り部」講話活動の拡大

- ・今年度は、昨年10月より開始した語り部講話活動を堅実に継続していくとともに、館内で定期講話会の開催や、秋に研修を修了する第2期生を含めた講話活動の広がりを進めていきます。

(2) 証言映像は家族（子、孫）の証言へ

- ・戦傷病者の高齢化が更に進み、ご自身が戦地で受傷した人の年齢は90才半ばを超えるため、証言映像を記録する対象者を見つけ出すことが、年を追うごとに困難になってきております。
引き続き、対象者の調査を継続するとともに、加えて対象者の妻、子、孫の代の方からの適切な証言を記録することに関しても、本格的に取り組んでいきます。

3. より若い人に伝える

(1) 団体見学者への語り部講話、展示解説のさらなる浸透

- ・団体見学者の8割以上が、中学生から大学生・専門学校生の若い世代です。すでに多くの若い世代の団体見学者に対して語り部の講話や学芸員による展示解説を実施しておりますが、今年度も同活動を堅実に継続していくとともに、さらなる機会拡大を目指します。

(2) 身近なテーマでの企画展の開催

- ・年に2回開催の企画展は、身近で分かりやすいテーマを設定することにより、若い世代の方々にも興味をもって展示を見てもらい、戦傷病者の労苦の継承、深い理解獲得を目指します。

4. より分かりやすく伝える

(1) 関係施設との連携強化

- ・来館者の理解を深めるためには、昭和館、平和祈念展示資料館、博物館や史料館等の関連施設との連携を図り、有効的な資料展示手法を取り入れるなどの機会拡大を図っていきます。

(2) 先の大戦等の情報提供機会の増大

- ・令和2年度は、戦後75年を経過することとなり、ほとんどの世代が先の大戦を経験したことがない時代となってきました。先の大戦等に関する知識が少ない対象者に対して、しょうけい館として伝えたい情報を的確に理解してもらうためには、その前提となる先の大戦等の基本情報の提供がますます重要になってきています。そのため、先の大戦等の基本的情報を、学芸員による解説に付加するなど情報提供の機会を増やしていくことを進めていきます。

Ⅲ. 令和2年度事業計画案

1. 展示関連事業

(1) 企画展

春の企画展「病床からフィールドへ」

- ・開催期間：令和2年3月〇日（〇）～〇月〇日（〇）
- ・身体機能の回復・強化を目指すなかで、戦傷病者がスポーツとどのように関わってきたのかを紹介します。戦時中に開催された「傷兵慰問体育運動大会」と、戦後1964年に開催された「東京パラリンピック」の2つの大きなスポーツ大会を通して、当時の戦傷病者とスポーツの関係を紹介します。

夏の企画展「車いすと戦傷病者（仮称）」

- ・開催期間：令和2年7月14日（火）～9月13日（日）
- ・脊髄損傷者となった戦傷病者の車いすでの生活の実態の紹介や、車いすの進化等について展示します。また、企画展開催時期に開催される2020東京パラリンピックに合わせた関連の展示も、今年の春の企画展に引き続き行う予定です。

春の企画展「戦傷病者就労への道（仮称）」

- ・開催期間：令和3年3月9日（火）～5月9日（日）
- ・戦傷病者にとって仕事を心得、それを続けることは容易なことではありませんでした。戦傷病者の戦中・戦後の就労環境や、職業指導などにより獲得した技術、自身の身の努力と工夫、周囲の理解や援助、そして職場環境によってどのように仕事に向き合ってきたか等を、戦傷病者の証言や仕事道具等の展示を通して紹介します。

(2) ミニ展示

- ・令和元年度に寄贈を受けた資料を含め、過去に受け入れた資料のなかから戦傷病者の労苦を理解してもらうに適切な内容の資料を選定し、小規模の展示を定期的に行っていきます。
- ・誰もが興味をもって見られるような企画を心がけ、企画展の合間の期間に適宜展示していく予定です（年間2回開催予定）。

(3) 3館連携企画展

- ・開催期間：令和2年10月2日（金）～10月11日（日）岩手県盛岡市で開催
- ・銃弾が貫通した眼鏡や帽子等の戦傷病者とその労苦を象徴的に伝える収蔵品を中心に、戦傷病者の労苦にリアルに迫る展示を行います。
- ・併せて岩手県及び東北地方の戦傷病者の証言映像も上映します。
- ・昭和館、平和祈念展示資料館との3館連携開催となります。

2. 資料保存関連事業

(1) 資料の寄贈

- ・各都道府県傷痍軍人会からの資料寄贈については、昨年解散した長崎県傷軍人会からの寄贈を受けたことにより、最後の受け入れを完了しました。最近の資料の寄贈状況については、戦傷病者の多くの方が他界されたため、御家族からの寄贈が続いています。
- ・令和2年度も、個人からの資料の寄贈を引き続き積極的に受け付けていく予定です。
- ・令和元年度寄贈資料数（令和2年2月末現在）
実物資料 354 点（総計 29,686 点）、図書資料 45 点（総計 6,760 点）

(2) 資料の購入

- ・陸海軍病院関連資料及び軍事保護院関係資料を優先的に、企画展及び証言映像などで活用出来るものを適宜購入予定です。また、戦傷病者等労苦継承事業調査検討委員会報告書（平成16年）を参考に、幅広く情報収集していく予定です。
- ・令和元年度購入資料数（令和2年2月末現在）
実物資料 18 点（総計 1,182 点）、図書資料 78 点（総計 3,413 点）

3. 教育啓発関連事業

(1) 次世代の語り部事業

①語り部育成事業

- ・2期生8名、3期生5名の13名（令和2年2月現在）で講話原稿の作成とグループ演習など研修を行い、今年度は9月に2期生が修了を迎えます。

②語り部活動事業

- ・10月からは既に活動している1期生に加え、2期生も「戦後世代の語り部」として、団体見学者対応などでの語り部として活動する予定です。
- ・令和2年度は、現状の団体見学者対応の講話に加え、定期講話会の実施など活躍の場の拡大を図っていきます。
- ・団体見学者への語り部講話の実施は、昨年10月～1月の4ヶ月間で、中学校を中心に計16団体、延べ約600人を対象として実施しました。令和2年度は、2千人を超える団体見学の方々に講話を実施していきたいと思えます。
- ・また、今年度未実施の館内で実施する定期講話会は、企画展会期中に数日間開催するフロアレクチャー(学芸員による展示解説会)と一連の催事として開催することで一定の集客を確保したうえでの開催を目指します。
- ・語り部は、講話だけでなく常設展の展示説明も含め、活動の場を広げていくことも検討していきます。

戦中・戦後の労苦を伝える次世代の語り部事業

(参考資料)

【実施内容】

戦中・戦後の労苦を直接体験した者が高齢化する中、当時の労苦を語り継ぐことができる次世代の語り部をしょうけい館において育成し、戦中・戦後の労苦体験の継承を図る。

<育成事業>

| 初年度 基礎的、専門的知識の充実 | 2年目 応用技術の習得 | 3年目 実践を通じたスキル向上 |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・歴史や語り部に必要な知識等の学習 ・証言映像の視聴及び戦傷病者の状況把握 | <ul style="list-style-type: none"> ・話法技術の習得 ・所蔵証言映像の解説／視聴による、講話原稿の作成とグループ演習による研修 | <ul style="list-style-type: none"> ・個々の講演原稿の作成 ・模擬講演実習・実演の実施 ・他の語り部との情報交換など |



<活動事業>

| 委嘱を受けた語り部による講話活動の実施 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・しょうけい館への来館者に対する講話の実施 ・定期講話会の実施 ・地方展での講話の実施 ・実物資料を利用した小中学校等へ出張講話の実施 など |

- ・研修2年目の10月頃より、「証言映像」を基に実践的な講義を実施し、各講義毎に全員に講話原稿の作成を実施し、講師の指導の下に戦傷病者の思いに迫って頂き、研修生同士の意見などの集約を行っていきます。
- ・研修3年目の前半は、語り部として研修生が個別の対象を決め、講話原稿の作成や表現について具体的な実習を実施します。後半には、館内の展示室や証言映像シアターでの団体見学者への講話実習を予定しております。研修の最後には研修の成果発表を予定しております。

(2) 証言映像

- ・戦傷病者およびそのご家族の証言を収録すべく、令和2年度も対象者の調査を継続していきます。旧都道府県傷痍軍人会事務局関係者や、他館（南風原文化センター等）の証言者など、あらゆるネットワークを活用し証言者の掘り起こしを実施していきます。

4. 情報センター関連事業

(1) データベース・検索システム

- ・令和元年度に統合化を図った検索システムにおいて、未登録となっている収集資料の整理分析を進め、データベースへの登録、公開情報の充実を継続的に進めていく予定です。
- ・その他、日本傷痍軍人会の広報紙「日傷月刊」の検索端末への登録や、収蔵品の映像資料（8mm,16mmフィルム）の中から公開可能な映像を登録し、視聴できるようにするなど検索システムのコンテンツの充実を検討しています。

5. 普及・広報事業

(1) パブリシティ活動

- ・令和2年度は新聞各社・放送局が、「戦後75年」、「東京パラリンピック」を題材とした記事や番組を発信する機会は極めて多くなると考えられることから、しょうけい館で保有する資料の提供等、新聞社・放送局に対する協力体制を高め、円滑な関係形成を図ることによるパブリシティ活動を積極的に進めていきます。

※パブリシティ活動

費用を負担して情報を流す「広告」とは異なり、テレビや新聞などのメディアに、報道として自社（しょうけい館）に関する内容を取り上げてもらう活動をいいます。

(2) しょうけい館ホームページ

- ・ホームページについては、令和元年度に制作した「語り部講話活動」の紹介ムービーが団体見学者への効果的なツールとなりました。令和2年度も、語り部定期講話会の案内情報や、企画展に関連したイベント情報などの催事情報の詳細な提供など潜在利用者への効果的な情報提供システムとしての活用を図っていきたいと思います。

(3) しょうけい館友の会

- ・しょうけい館友の会については、友の会通信第10号及び第11号を10月及び2月に発行を予定しています。企画展等の活動の告知・報告の他、データベースへの情報掲載や、資料寄贈の依頼を送付し、引き続き各種情報提供とともに情報収集を行っていきます。

(4) 配付資料・ポスター

- ・年2回の企画展及び3館連携企画展（地方展）の開催にあたっては、今年度も昨年度同様、全国の自治体、学校、関連機関等へ、チラシやハガキ、ポスターを配布し、掲示の協力を依頼する予定です。

① 平成 30 年度 春の企画展

“想い”を込めて ～作品からみる戦傷病者～

開催趣旨

戦傷病者は、人生のさまざまな局面で多様な作品を残しています。本展では、当館所蔵の資料を中心に戦傷病者の作品を紹介します。各々の戦傷病者が自身のハンディを抱えながら作り上げた作品の数々…。

両眼失明の方が自身の心情を揮った書。左腕に機能障害のある方が戦争体験の想いを込めて彫った仏像。隔離生活を余儀なくされた方が道具の無いなかで作ったトランク等、そこには戦中・戦後に体験したさまざまな“想い”が込められています。

戦地へ赴き、受傷や発症によってその後の人生が大きく変えられてしまった戦傷病者の作品を通して、戦中・戦後の労苦を乗り越えようとした“想い”を感じ取ってください。

主 催 : しょうけい館 (戦傷病者史料館)
会 期 : 平成 31 (2019) 年 3 月 12 日 (火) ～5 月 6 日 (月)
会 場 : しょうけい館 1 階
入 場 料 : 無料
開 館 時 間 : 10 : 00～17 : 30 (入館は 17 : 00 まで)
休 館 日 : 毎週月曜日 (4 月 29 日 (月)・5 月 6 日 (月) は開館)
内 覧 会 : 平成 31 (2019) 年 3 月 12 日 (火) 10 : 00～12 : 00
協 力 : 古河歴史博物館

展示構成

1. 竹細工（脊髄損傷者の作品）

昭和 12（1937）年に中国山西省での戦闘で脊髄を損傷し、下半身麻痺となった方です。内地還送後、昭和 16（1941）年 11 月に、傷痍軍人箱根療養所へ入所しました。

終戦後、インフレが激しく恩給のベースアップが追いつかず、寮内の生活は苦しい時代を迎えます。寮内の人々は、作った竹細工を売って生活費に充てていました。自分の作った物が売れることが夢のようで、働く意欲がでてきたと語っています。また、全国からの暖かい支援が生きる糧になったとも語っています。

< “想い”をたどる記述 > を紹介

- ・「**自分のような者が作ったものが売れるなんて夢みたいな話。**」
『戦傷病者の労苦を語り継ぐ』（しょうけい館 平成 15 年度収録 証言映像）

竹細工（二行書）



昭和 16（1941）年、中国河南省にて作戦従事中に銃撃を受け、城壁から落下し、下半身麻痺となった方の作品です。内地に還送され、臨時東京第一陸軍病院を経て、18（1943）年に傷痍軍人箱根療養所へ入所しました。

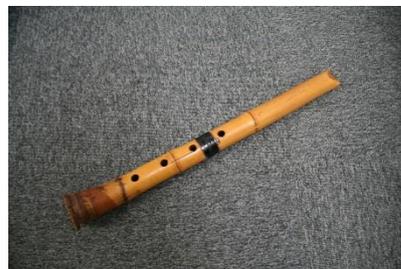
出征前に竹細工職人として働いていたことからその技術を活かし、終戦後も所内での主な収入としました。それでも、材料費・塗料費などの諸経費を差し引くと、小額しか手元に残らず苦しい生活を送ります。

また、共に竹細工作りに励んだ僚友が亡くなり、残された家族が退所する際には、「明日は自分が出ていく番になるかもしれない」という思いが募り、本当につらかったと妻は語っています。

< “想い”をたどる記述 > を紹介

- ・「**家内が毎日毎日私の世話をしてくれる。感謝以外の何も言えないですね。**」
「ある生活（夫婦）」『朝日ニュース第 1365 号』
（朝日新聞社・日本映画新報社制作 昭和 46 年）

尺八



2. 仏像

観音菩薩立像(未完)

昭和 13 (1938) 年、歩兵第 38 連隊に入営し、中国へと出征した方の作品です。河南省経扶県附近にて受傷し、銃弾が左手首から入り肘へと抜けました。その感覚は、斧で打たれたような衝撃であり、全身が痺れたといえます。

受傷後、野戦病院を経て内地還送され、広島陸軍病院に入院します。症状が完治した後、リハビリとして鳥取県の皆生温泉にて温泉療養を受けます。リハビリは 1 日に数時間の卓球を行うことでした。初めは左手の指すべてが動きませんでした。親指と人差し指がどうにか動くようになりましたが、左手に機能障害が残ります。

還暦を迎えてからは、仏師に弟子入りをして仏像彫りに熱中しました。もともと手先が器用で彫刻が好きであったため、不自由な左手で押さえながら何体もの仏像を彫りました。< “想い” をたどる記述 > を紹介



・「戦友がたくさん死んだ戦争の思い出。仏像というものは日本人誰もが心の中で手を合わせたりする。」

『戦傷病者の労苦を語り継ぐ』（しょうけい館 平成 28 年度収録 証言映像）

3. 能面

翁面「白式尉」

昭和 18 (1943) 年に高等小学校を卒業した際、満蒙開拓青少年義勇軍に入所するよう勧められ、茨城県の内原訓練所に入所した方です。同年に満州へ渡り、寒中訓練の際に凍傷となり右足先と左脚を失います。負傷時は「氷点下の満洲の地で穴に落ちてしまい、一晩中救助が来ないまま凍傷となった」といいます。訓練中に凍傷で右足先と左脚を失うことは受け入れ難いものでありました。

昭和 20 (1945) 年 4 月に内地還送され、内原訓練所義勇軍病院へ入ります。歩行訓練では、「何としても歩くんだ」という気持ちで訓練しました。終戦は同所で迎えることとなります。昭和 47 (1972) 年、仕事中に荷物運搬用のエレベーターの下敷きになり、脊髄圧迫という瀕死の重傷を負いますが、印刷会社に再就職し、64 歳まで働くことができました。

(※足…足首から先 脚…足首から骨盤まで)

< “想い” をたどる記述 > を紹介

・「何としても歩くんだ」という気持ちで訓練

『戦傷病者の労苦を語り継ぐ』（しょうけい館 平成 27 年度収録 証言映像）



4. 木工品

茶箆筒

特撮映画美術監督として、特撮映画を支えたデザイナーの方の作品です。昭和 19（1944）年に中国の揚子江にて P-51 ムスタングの機銃掃射を受けます。受傷時、左脚の膝から下は皮一枚で繋がっているような状態で、左脚は下腿部（膝下）から切断となりました。



戦後、片脚が無いという理由でバスには乗車拒否され、宿にも断られるという体験をしています。義足がつけられたのは、昭和 21（1946）年に別府海軍病院に移ってからです。ここで作業用の義足をつけて歩行訓練を行います。同年 4 月、手に職をつけるために、福岡県小倉の傷痍軍人補導所（職業訓練所）に入学し、家具作りの勉強を始めました。

東宝に入社し、特撮映画では 1954 年『ゴジラ』から 1988 年『アナザーウェイ D 機関情報』まで数々の特撮映画を手がけました。

< “想い,,をたどる記述”を紹介

- ・母を想い、「死んではならない」と強く生きる決心をした
『特撮映画美術監督 井上泰幸』（平成 24 年）

トランク

昭和 19（1944）年のニューギニア戦線でオーストラリア軍の捕虜となった方の作品です。その後、カウラ収容所へ移送され、捕虜生活中の体調不良により、ハンセン病の発症が確認されました。これにより隔離され、他の捕虜とは別生活となりました。鍛冶屋の経験があったため、手先が器用なことを活かし、様々な物を作ります。道具が無い状態でしたので、食堂のナイフを用いて毛布や天幕を破き、余った木箱と合わせてトランクを作成しました。トランクは作りが丈夫であったことから好評となり、12 個作成したうち、11 個は病院の中の雑役を行う人に分け与えました。



< “想い,,をたどる記述”を紹介

- ・「入院看護されておった時「おい立花 元気か」と言ってくれる人は誰一人いなかった。」
『戦傷病者の労苦を語り継ぐ』（しょうけい館 平成 28 年度収録 証言映像）

5. 書

「皆様難有」(軸装)

昭和 12 (1937) 年に中国の揚子江にて敵部隊を前に上陸作戦中に銃弾が右眼から入って左眼を貫通したため、両眼失明となった方です。東京の軍医学校付属病院に入院、医院長からは手術すれば視力が回復すると言われますが、回復の見込みがないことを知らされると何度も自殺を図ろうとします。

時が経つにつれて、前向きに生きるようになります。その理由は、恩師や教え子たちなど様々な人からの激励があったからです。出征前は、今治青年学校で教鞭をとっていたため、両眼失明となった後も再び教師としての道を歩むこととなります。

80 歳になると、運動不足を補うために習字を始めたと言っています。週に 1 度、習字の先生に教わりますが、それ以外の日は、娘が作成した型紙を用いて、墨を付けない筆で毎日欠かさず 1 時間ほど練習を行いました。

< “想い” をたどる記述 > を紹介

・「今度は何を書こうかと思った時に何のためらいもなく、自然にスーッと頭に浮かんだのが「皆様有難う」5つの文字でございました。」

「愛媛放送賞・愛媛放送奨励賞 顕彰式」『テレビ愛媛』(平成 3 年)



「東照公遺訓」(口筆 掛軸)

昭和 19 (1944) 年に香取航空基地の夜間訓練中に同乗した飛行学生の操縦ミスにより墜落、両腕切断の重傷を負った方です。この惨事により、先輩も両腕切断となりました。

二人は、目黒海軍病院にて厳しい訓練を受けることとなります。同年齢であり、切断部位も同じであるため、互いに切磋琢磨しながら訓練を行ってきました。戦後の苦しい生活の中、互いに交わす口筆(口で筆をくわえて文字を書くこと)の便りが何よりも心の支えとなりました。

< “想い” をたどる記述 > を紹介

・戦後の苦しい生活の中互いに交わす口筆の便りが何よりも心の支え「義肢に血通うまで」(『県傷三十五年史』昭和 62 年)



6. 短歌

昭和 20 (1945) 年、トラック諸島夏島において米軍の空襲によって受傷した方の作品です。爆弾で吹き飛ばされ、右脚は骨がえぐれ、肉と皮が半分繋がっただけの状態でした。洞窟の救護所に運び込まれますが、麻酔なしで右脚切断手術を行ったため、痛みで気絶しました。昭和 21 (1946) 年に復員し、国立相模原病院へ入院しますが、切断面から膿が出ていたため、再手術をします。その後の入院中、故郷へ帰る際に駅の階段で転倒して骨折、三回目の手術を受けます。度重なる手術により負傷した右脚は短くなってしましますが、歩行訓練は擦り傷ができるほど行いました。

< “想い” をたどる記述 > を紹介

・ 夢に見る 激戦の後 いたましき 椰子の梢に 戦友の片腕
自作短歌

短歌 (額装)



隊付将校として南方へ出征し、昭和 19 (1944) 年 6 月、ニューギニア島で迫撃砲により左脚切断の重傷を負った方です。野戦病院までの移動手段がないため、後方の衛生隊に入れられますが、左脚がガス壊疽をおこしてしまいます。局部麻酔を打ち、ノコギリで左脚を切断することになり、その音が耳に残っているそうです。

昭和 21 (1946) 年の復員後には、肺結核を発症するなど、戦後も長く苦しみました。左脚を失くし、幾度もの死線乗り越えた内貴氏は、家族や恩賜の支えがあったからこそ、ここまで生きることができたと語っています。

< “想い” をたどる記述 > を紹介

・ 麻酔うち うつろの内に 骨をきる ノコギリの音 聞きつ眠れり
『ニューギニア戦歌集』 (平成 19 年)

『ニューギニア戦歌集』



満洲の戦車第 1 連隊に配属され、戦車の操縦手をつとめた方の作品です。奉天で終戦を迎えた後にソ連軍によって抑留され、昭和 20 (1945) 年 11 月から昭和 22 (1947) 年 8 月までソ連領チェケリ鉛鋳山で削岩機を用いた坑内作業に従事しました。その際に、坑内で吸った粉塵が原因で、昭和 30 (1955) 年にシベリア珪肺に

「抑留中の詩」 (短歌集)



侵されていることが判明します。復員から 20 年以上経った昭和 43（1968）年には肺結核を併発したため、翌年に左沢光風園に入院、昭和 50（1975）年に至るまで入退院を繰り返します。当時の心境として、自身では痛みや苦しみが無いので家族に申し訳ないと感じていたと語っています。

< “想い”をたどる記述 > を紹介

・「自分に痛いとか苦しいとかない病気なもんだから、申し訳ないなあとただ思っで。」
『戦傷病者の労苦を語り継ぐ』（しょうけい館 平成 22 年度収録 証言映像）

7. 漫画

昭和 12（1937）年に中国南部に出征し、昭和 13（1938）年の徐州作戦にて左肩を受傷した方の作品です。野戦病院に収容された後、上海の兵站病院を経て内地還送、伊東療養所へ入所した後に除隊となりました。従軍中に見たり聞いたりしたことを数多く書き溜めており、復員後にそれらをまとめた著書を出版します。

展示作品は、出征時に描いた絵をまとめた『甕風呂』『繪と文の現地だより』、療養中に白衣の傷痕軍人を描いた『白衣画集』です。『甕風呂』と『繪と文の現地だより』は出征時の軍隊生活をコミカルに描いたり、風景や人物を写實的に描いています。『白衣画集』は三上氏が療養中に描いたスケッチをまとめたものです。

< “想い”をたどる記述 > を紹介

・「僕が死んだら、ゼヒこの繪だけは故郷へ送って欲しい」
『繪と文の現地だより』（昭和 15 年）

『甕風呂』



「いばらき漫評」（原画）

昭和 19（1944）年にマレー半島で左大腿部を切断の重傷を負った方の作品です。

昭和 32（1957）年～昭和 37（1962）年の間、日本傷痕軍人会の機関紙『日傷月刊』に漫画を掲載した他、『茨城新聞』には昭和 44（1969）年～平成 15（2003）年まで時事漫画「いばらき漫評」を掲載していました。茨城県古河市にゆかりのある人物として、古河歴史博物館では『茨城新聞』に掲載していた原画などを所蔵しています。

今回は古河歴史博物館の協力のもと、『茨城新聞』に掲載していた漫画の原画と筆、分銅、文鎮などの筆記用具を展示します。

< “想い”をたどる記述 > を紹介

・「漫画を書くので協力したい」
『日傷月刊』（昭和 37 年 3 月 1 日 第 100 号）



関連イベント

フロアレクチャー

内 容：学芸員が企画展の展示解説をします。

日 時：3/24（日）・4/7（日）・5/5（日） 14：00～14：30

場 所：1階企画展示室

その他：当日参加自由・無料

証言映像上映

内 容：本展に関連する戦傷病者の証言映像を上映します。

日 時：毎日 10：00～17：00（休館日を除く）

場 所：1階証言映像シアター

その他：鑑賞自由・無料

| 上映プログラム | 証言映像タイトル |
|---------|-------------------------------|
| A | 捕虜と隔離が打ち砕いた人生 |
| A | 体験記をまとめて知った父の想い |
| B | 暖かい支援にささえられて～傷痍軍人としての誇りと生きがい～ |
| B | シベリア珪肺～今も続く後遺症～ |
| B | 片脚を失くしても前へ進む |
| C | 療養所は大きな家族～支えあい、助けあい～ |
| C | 夫の両脚となって共に歩んだ人生 |
| C | 誠(まごころ)で守られた命—ニューギニア戦線にて— |

※証言者の（ ）は証言者の家族

※上映プログラムについて

上映プログラム A：①10時～11時・②13時～14時・③16時～17時 毎日3回上映

上映プログラム B：①11時～12時・②14時～15時 毎日2回上映

上映プログラム C：①12時～13時・②15時～16時 毎日2回上映

② 令和元年度 夏の企画展

病院船

～戦傷病者を還送した船～

開催趣旨

戦時において発生する傷病者または海難者を救助、治療することを目的とした船舶を病院船と呼びます。

日本においては、明治 27 (1894) 年の日清戦争以降、陸海軍が有事に際して民間商船を徴用するかたちで運用されてきました。戦傷病者の立場から病院船について見ていくと、乗船する際の心境は、その時の戦局の影響を大きく受けます。日本に向かう傷病兵の思いはそれぞれで、資料や作品から当時の様子的一端を垣間見ることができます。

本展では、戦時中の病院船の活動の実態を紹介するとともに、病院船で搬送された戦傷病者にまつわる資料、証言をもとに病院船とはどのような存在であったのかについて考えます。

| | | | | |
|---|---|--|---|------------------------------------|
| 主 | 催 | ： しょうけい館 (戦傷病者史料館) | | |
| 会 | 期 | ： 令和元 (2019) 年 7 月 17 日 (水) ～9 月 8 日 (日) | | |
| 会 | 場 | ： しょうけい館 1 階展示室 | | |
| 入 | 場 | 料 | ： 無料 | |
| 開 | 館 | 時 | 間 | ： 10 : 00～17 : 30 (入館は 17 : 00 まで) |
| 休 | 館 | 日 | ： 毎週月曜日・8/13 (ただし 8/12 は開館) | |
| 内 | 覧 | 会 | ： 令和元 (2019) 年 7 月 17 日 (水) 13 : 00～14 : 00 | |
| 協 | 力 | ： 日本郵船氷川丸、日本郵船歴史博物館、横浜みなと博物館 | | |

展示構成

1. 病院船とは

明治 32 (1899) 年、有事の際に海上で発生する負傷者および海難者救護を目的として、「ジェネヴァ条約の原則を海戦に応用する条約」(通称：ハーグ条約) が、日本を含む 26 ヶ国間で締結されました。この条約において、病院船とは戦時において発生する傷病者または海難者を、国籍に関係なく救助・治療するものと位置づけられたのです。

日本では、日清戦争時に海軍が病院船「神戸丸」を徴用したことが最初となります。その後、日本赤十字社によって建造された「博愛丸」(明治 31 年)、「弘済丸」(明治 32 年) など、日清戦争を契機として有事の際に軍が民間商船を病院船として徴用していくこととなりました。

昭和 12 (1937) 年以降、戦争が拡大すると、病院船の活動も多岐にわたりました。病院船は戦時期間中を通して戦地へ医薬品の輸送、戦地での防疫を行い、戦地からは戦傷病者を内地へ還送するなど、様々な任務に従事しました。ハーグ条約では「船舶(注：病院船)は戦闘中と戦闘後とを問わず自ら危険の責に任して行動する」とされており、病院船が交戦国に攻撃され沈没することの危険性を認識していなければなりません。戦時下においては、艦船・輸送船・病院船の別なく攻撃されることも多かったです。



担送患者収容風景
(日中戦争期／病院船「波上丸」)



担送患者収容風景
(戦時中／病院船「氷川丸」)

2. 病院船と戦傷病者

白地の船体に赤十字をあしらった病院船は、戦傷病者にとって内地還送してくれる救世主のような存在でもありました。しかしながら乗船する戦傷病者の心境は、その時の戦局の影響を大きく受けます。内地に向かう傷病兵の思いはそれぞれで、資料や作品から当時

の様子的一端を垣間見ることができます。

ここでは病院船に乗船した経験のある戦傷病者につわる資料や証言をもとに、戦傷病者が病院船をどのようにとらえていたのかを紹介します。



中国戦線より病院船で内地還送される際の心境を綴った回想記
(昭和17年2月／病院船不詳)



海南島より内地還送のため氷川丸に乗船した際のスケッチ
(昭和19年12月／病院船「氷川丸」)

3. 戦傷病者の病院船絵画

海洋船舶画家の上田毅八郎さんは、陸軍の船舶砲兵として輸送船「金華丸」に乗り込み、昭和19(1944)年11月フィリピンのマニラ湾の船上で受傷しました。利き腕である右腕を受傷したことにより、復員後は左手で字を書く訓練に励み、家業であった塗装業を営む傍ら、艦船の絵を描き続けました。晩年は、海洋船舶画家として戦艦、帆船、客船をはじめ、機関車、スポーツカーなど、幅広いジャンルの絵を描きました。その代表作はプラモデルの箱絵にも用いられています。

多くの艦船や輸送船などを描いた上田作品の中には病院船も含まれています。



絵画「氷川丸」



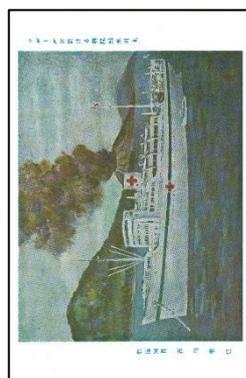
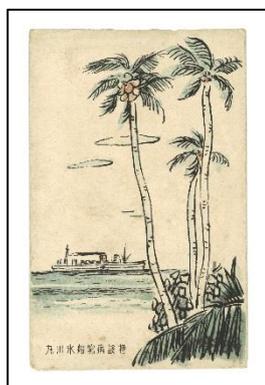
絵画「高砂丸」

4. 「氷川丸」の航跡

氷川丸は昭和 5（1930）年に日本郵船によって建造されました。海外の主要航路として位置づけられていたシアトル航路についた氷川丸は、最新鋭の豪華貨客船としてチャールズ・チャップリンや秩父宮同妃両殿下などの著名人も乗船するなど、華々しい活躍をしていました。

昭和 16（1941）年 11 月、海軍に徴用されて海軍特設病院船となり、終戦までのおよそ 3 年半の間に南洋諸島方面へ赴き、計 24 回の航海で約 3 万人に上る傷病兵を還送しました。

戦争を生き抜いた氷川丸は現在、神奈川県横浜市の山下公園内に係留、公開されています。平成 28（2016）年には国の重要文化財に指定され、貨客船、病院船、そしてまた貨客船へと数奇な運命をたどった航跡をうかがうことができます。



病院船「氷川丸」絵葉書セット
(日本郵船歴史博物館所蔵)



「引揚げ輸送中の病院船（氷川丸）」
(製作年不詳／日本郵船歴史博物館所蔵)



現在の氷川丸
横浜港洋上より撮影（提供：日本郵船氷川丸）

関連イベント

1. フロアレクチャー

内 容：学芸員が企画展の展示解説をします。

日 時：7/28（日）、8/4（日）、8/25（日） 14：00～14：30

場 所：しょうけい館1階 企画展示室

その他：当日参加自由・無料

2. 証言映像上映

内 容：病院船に乗船した戦傷病者やそのご家族の証言映像を紹介

日 時：会期中毎日 10：00～17：00

場 所：しょうけい館1階 証言映像シアター

その他：当日参加自由・無料

| 上映時刻 | 映像タイトル | 時間 |
|-------|------------------------|-----|
| 10：00 | 海軍看護兵 若き日の記憶 | 15分 |
| 10：00 | がむしゃらに生きて、描く | 18分 |
| 11：00 | 生かされた人生への感謝 | 21分 |
| 12：00 | 家族の絆で支え合う | 16分 |
| 12：00 | 再起奉公 痛みと葛藤を超えて | 17分 |
| 13：00 | 闘い続けた半生 | 24分 |
| 13：00 | 軍旗の下で・・・体と心の受傷 | 10分 |
| 13：00 | 障害を超えたおおらかさ | 10分 |
| 14：00 | ミッドウェー海戦で負傷して | 18分 |
| 14：00 | 無いものは無い、それでもやるほかない… | 19分 |
| 14：00 | 癒されない心 「死んだ方がまし」と思った青春 | 14分 |
| 14：00 | 心の痛みと共に～飛行班の思い～ | 19分 |
| 15：00 | 戦場体験が生んだわかまり | 25分 |
| 16：00 | 二人三脚、商売繁盛 | 22分 |
| 16：00 | 終戦から始まった30年の闘い～銃創と結核～ | 13分 |
| 17：00 | 今日あることに感謝 明日があればさらによし | 23分 |

- ◆上映時間以外でも、情報検索機にてご覧いただけます。
- ◆団体プログラムにより変更となる場合もあります。

③ 令和元年度 春の企画展

病床からフィールドへ

～スポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡～

開催趣旨

本展では、身体機能の回復・強化を目指すなかで、戦傷病者がスポーツとどのように関わってきたのかを紹介します。戦時中に開催された「傷兵慰問体育運動大会」と、戦後 1964 年開催の「東京パラリンピック」の 2 つの大きなスポーツ大会を通して、当時の戦傷病者とスポーツの関係を紹介します。

また、本展では、「1964 年東京パラリンピック」のカラー記録映画を上映します。東京パラリンピックのカラー記録映画は、現在確認されているものではこの作品しかありません。記録映画では、開会式や 15 の競技・種目の様子、外国人選手に行ったアンケート調査の結果の要点などが詳細に記録されています。

主催：しょうけい館（戦傷病者史料館）
会期：令和 2（2020）年〇月〇日（ ）～〇月〇日（ ）
会場：しょうけい館 1 階 企画展示室
入場料：無料
開館時間：10：00～17：30（入館は 17：00 まで）
休館日：毎週月曜日
内覧会：〇月〇日（ ）
協力：日本放送協会、日本赤十字社、社会福祉法人太陽の家
資料提供：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
問い合わせ：しょうけい館 永島 電話 03（3234）7821

※状況により中止とさせていただきます。中止の場合はホームページにてお知らせいたしますので、ご確認願います。

※2月28日（金）から3月16日（月）まで休館となります。企画展の会期は未定となっております。



展示構成

1. 戦時中の傷痍軍人とスポーツ大会

戦時中、日本では傷痍軍人による錬成大会（スポーツ大会）が行われていました。昭和14（1939）年3月19日には大日本体育協会が国内初とみられる「傷兵慰問体育運動大会」を開催し、日中戦争の傷病兵ら約150名が出場しました。自転車運動、銃剣術、バスケットボール、相撲、剣道、綱引きのほか、患者病棟対抗や患者対軍医団によるサッカーなどが行われました。また、早稲田大学対立教大学のバレーボールの試合や、学生による陸上競技大会も同時に開催されました。



パンフレット「傷兵慰問体育運動大会」
（昭和14年）

「傷兵慰問体育運動大会」以外の傷痍軍人による錬成大会では、綱引きや俵担ぎ、自転車競走、障害物競争などが行われました。

この章では、戦時中に行われていた傷痍軍人によるスポーツ大会の様子を写真資料などで紹介します。



綱引きをする傷痍軍人たち



俵担ぎをする傷痍軍人たち



銃剣道をする傷痍軍人たち

2. 国際ストック・マンデビル競技大会の歴史と東京大会開催の要請

重度身体障害者に残存機能を訓練することで社会復帰の道を開いたのは、イギリスの医師ルードヴィヒ・グットマン博士でした。イギリスでは第二次世界大戦中、ドイツとの戦争において多くの負傷者が出ることへの対策として、負傷者を受け入れるための病院を専門別に建設しました。グットマン博士は、ロンドン郊外のストック・マンデビルに建設された脊髄損傷専門病院の院長でした。

神経学者であったグットマン博士は、脊髄に損傷を受けた場合はその回復は容易ではないことから、残存機能の強化訓練に努力し、脊髄損傷の治療手段としてスポーツを早くからとり入れ、スポーツを主としたリハビリテーションに力を入れていました。そして昭和23（1948）年にはストック・マンデビル病院で入院患者によるスポーツ競技会を開催し、昭和27（1952）年には国際的な両下肢麻痺者によるスポーツ競技会として発展してきました。



ルードヴィヒ・グットマン博士
（提供：社会福祉法人太陽の家）

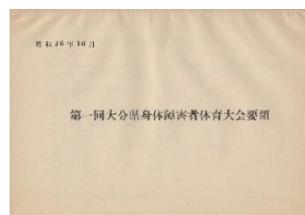
昭和35（1960）年には、ローマで開催されたオリンピックから引き続き、同じ場所で国際ストック・マンデビル競技会（のちの第1回パラリンピック大会）が開催されました。その後、欧米の障害者スポーツの取り組みを視察するためにストック・マンデビル病院を訪れた日本の関係者らは、グットマン博士から、1964年東京オリンピックの後、国際ストック・マンデビル競技大会を開催してほしいと要請されました。

昭和36（1961）年、グットマン博士の元に留学した国立別府病院の中村裕博士が中心となり、大分県で身体障害者体育大会が全国で初めて開催され、身体障害者スポーツの振興と、パラリンピック開催の促進に大きな影響を与えました。

この章では、パラリンピックの歴史と開催に尽力した人物を紹介します。



中村裕 博士
（提供：社会福祉法人太陽の家）



第1回大分県身体障害者体育大会要領
（昭和36年）

3. 日本開催に向けて

東京でパラリンピックの開催が正式に決定されると、開催前の昭和 39（1964）年 2 月に厚生省（当時）から「国際身体障害者スポーツ大会の開催について」という通達が各都道府県知事および指定都市市長、琉球政府主席、関係団体などに発せられ、国立箱根療養所（当時）をはじめ、多くの選手が集められました。昭和 36（1961）年に大分県で行われた身体障害者体育大会を契機に様々なスポーツ競技会が行なわれ、出場した戦傷病者の記録も残っています。

この章では、東京パラリンピックに向けての練習風景などを映像と資料で紹介します。



パラリンピックに向けた
フェンシングの練習



パラリンピックに向けた
アーチェリーの練習

4. 1964 年東京パラリンピック

東京パラリンピックは、第 1 部国際ストーク・マンデビル競技大会と、第 2 部国内大会に分けて開催されました。第 1 部では脊髄損傷で車椅子を使用する選手、第 2 部では車椅子を除いた身体障害者（肢体不自由者・視覚障害者・聴覚障害者）の選手が競い合いました。

※開催期間 昭和 39（1964）年 11 月 8 日～11 月 12 日（第 1 部）
11 月 13 日・14 日（第 2 部）

この章では、1964 年東京パラリンピックについて関連資料や映像を基に紹介します。

注目資料：カラー記録映画「PARALYMPIC TOKYO 1964」

昭和 39（1964）年の東京パラリンピック（第 1 部国際大会）の様子を収めたカラーフィルム。東京パラリンピックのカラーによる記録映画は、現在確認されているものではこの作品しかありません。

本展では、当館が所蔵している 16mm フィルムの日本語音声と、日本放送協会が保管するネガフィルムの綺麗な映像を合体させたフィルムを上映します。

「1964年東京パラリンピック」カラー記録映画について

1. 基本情報

- 形式 : 16mm フィルム
時間 : 約 26 分 (内モノクロ部分あり (約 4 分 40 秒))
タイトル : 「PARALYMPIC TOKYO 1964」
ナレーション : あり (日本語)
寄贈者 : 独立行政法人国立病院機構 箱根病院
企画・製作者 : 厚生省 国立箱根療養所 (当時)



カラー記録映画「PARALYMPIC TOKYO 1964」

2. 映像・音声内容

(1) 映像内容

■主要映像

- ・開会式の様子
- ・15の競技・種目の記録
アーチェリー、ダーチャリー、卓球、フェンシング、重量挙、槍正確投、槍投、砲丸投、円盤投、棍棒投、車椅子競技 (50m)、車椅子スラローム (モノクロ映像)、
車椅子リレー (モノクロ映像)、水泳、バスケットボール
※各競技名は映像記録の順
- ・会場周辺 (選手が利用する食堂に設置した大型スロープや車椅子専用車両など) の様子

■記録されている主要人物

- ・開会式
皇太子殿下・皇太子妃殿下 (当時)、グットマン博士、
入場行進する日本人選手団など
- ・競技記録
フェンシング競技中の青野選手 (銀メダル獲得)

(2) ナレーション

- ・ナレーションは、日本選手団長で医師の中村裕氏などが実施した外国人選手の実態調査の調査結果の要点と、各競技の概要や種目区分 (障害別) の紹介、日本

選手と外国選手の社会環境の差異の分析などが、日本語で紹介されています。

参考資料 中村裕 1965年「国際身体障害者スポーツ大会を終りて」

『整形外科 16巻5号』p459～479

5. パラリンピックに出場した戦傷病者たち

昭和39(1964)年の東京パラリンピックでは、第1部の国際大会において2名の戦傷病者が活躍しました。1名は^{あおの、しげお}青野繁夫氏、もう1名は^{まつもとつよし}松本毅氏です。青野氏は、水泳で2位、フェンシング団体で2位と2つの銀メダルを獲得しただけでなく、選手団の代表を務め、開会式で選手宣誓を行いました。松本氏は、ダーチャリーで3位、アーチェリー団体で2位という記録を残しました。

また、パラリンピック第2部の国内大会においても、確認できている限り数名の戦傷病者が出場しており、競技の記録も残っています。

この章では、関係する資料とともに、出場した戦傷病者の活躍を紹介します。



青野繁夫氏



青野繁夫氏が獲得したメダル（水泳2位）
青野行雄氏所蔵（現物）



青野繁夫氏の
選手宣誓文が刻まれた竹細工

パラリンピックに参加して（青野 繁夫）

・フェンシングに於て、私達の技は確かに練習期間も8ヵ月という短時日で、西欧の伝統に対抗しようとするのであるから、考えれば無茶という人もあったと思うが、私達は敢然とそれに斗い、とにかくやり抜き、銀メダルを獲得出来た～（中略）～いずれにしても、水泳、フェンシングとも銀メダルを得た事は、自分の努力が報いられたものだけに、今迄の病床生活を思い、心から喜びをかくし様がなかった。

・今後自らをより一層強く持して、将来に期待して、人間として与えられた使命を果す如く、鋭意努力したいと、この意義あるパラリンピックに参加して、心に確く期した次第である。

出典：『国際身体障害者スポーツ競技会 東京パラリンピック大会 報告書』

6. 車椅子スポーツの振興

東京パラリンピック終了後の国立箱根療養所（当時）では、脊髄損傷者によるスポーツ発展と医学的管理を確立するために、車椅子スポーツ大会と同時に医学研究会を開催してきました。国立別府病院（当時）をはじめ、様々な関係機関の脊髄損傷者が数多く参加しました。

ここでは、写真資料を基にパラリンピックの後に行われた車椅子スポーツ大会について紹介します。



第1回車椅子スポーツ医学研究会
基調講演の様子



第1回車椅子スポーツ医学研究会
スポーツ大会の様子（バスケットボール）

関連イベント

1. 講演会

内 容：「通訳ボランティアとして経験した1964年東京パラリンピックを振り返る」

講演者：吉田紗栄子氏

日本女子大学3年生の時に、1964年東京パラリンピックのイタリア選手団の通訳ボランティアを務められました。「1964年東京パラリンピック」のカラー映画を観たのちに、当時の通訳ボランティアの体験談を語っていただきます。

一級建築士。障がいをもつ人々や高齢者の住環境設計に従事。現在はケアリングデザイン一級建築士事務所代表取締役、NPO法人高齢社会の住まいをつくる会理事長など。

日 時：〇月〇日（ ）

※2月28日（金）から3月16日（月）まで休館となります。日時は未定ですが、状況により中止とさせていただきます。

場 所：しょうけい館1階 証言映像シアター

その他：当日参加自由・無料

2. フロアレクチャー

内 容：学芸員が企画展「病床からフィールドへ」の展示解説をします。

日 時：○月○日（ ）・○月○日（ ）・○月○日（ ）

※2月28日（金）から3月16日（月）まで休館となります。日時は未定ですが、状況により中止とさせていただく場合があります。

場 所：しょうけい館 1階 企画展示室

その他：当日参加自由・無料

3. 証言映像上映

内 容：企画展に関連した戦傷病者、そのご家族の証言映像、記録映画を上映します。

日 時：会期中毎日 10：00～17：00（一部上映休止日・時間があります。）

場 所：しょうけい館 1階 証言映像シアター

その他：鑑賞自由・無料

映像内容等は [上映スケジュール](#) をご確認ください。

上映スケジュール

| 上映時刻 | 映像タイトル | 時間 |
|------------|-------------------------------------|-----|
| 10:00 } | <カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」 | 26分 |
| | <証言映像>多くの人に助けられて | 18分 |
| | <証言映像>ある生活(夫婦) | 5分 |
| 11:00 | <証言映像>受傷の労苦と葛藤を超えて | 10分 |
| 11:00 } | <カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」 | 26分 |
| | <証言映像>四十四年間～脊髄損傷の夫とともに生きぬいて～ | 24分 |
| | <証言映像>8人の傷痍軍人 | 8分 |
| 12:00 } | <カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」 | 26分 |
| | <証言映像>体験記をまとめて知った父の想い | 22分 |
| | <証言映像>療養所は大きな家族～支えあい、助けあい～ | 10分 |
| 13:00 } | <カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」 | 26分 |
| | <証言映像>箱根療養所 | 13分 |
| | <証言映像>誠(まごころ)で守られた命—ニューギニア戦線にて | 19分 |
| 14:00 } | <カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」 | 26分 |
| | <証言映像>手の代わりに腕が・・・ | 11分 |
| | <証言映像>受傷の労苦と葛藤を超えて | 10分 |
| 15:00 | <証言映像>暖かい支援にささえられて～傷痍軍人としての誇りと生きがい～ | 10分 |
| 15:00 } | <カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」 | 26分 |
| | <証言映像>四十四年間～脊髄損傷の夫とともに生きぬいて～ | 24分 |
| | <証言映像>8人の傷痍軍人 | 8分 |
| 16:00 } | <カラー記録映画>「PARALYMPIC TOKYO 1964」 | 26分 |
| | <証言映像>体験記をまとめて知った父の想い | 22分 |
| | <証言映像>療養所は大きな家族～支えあい、助けあい～ | 10分 |

- ◆上映時間以外でも、情報検索機にてご覧いただけます。
- ◆上映の休止：休館日、第二・第三土曜日の12:30～17:00
- ◆団体プログラムにより、上映時刻等が変更となる場合もあります。

広報及びネット掲載記事一覧

| 広報媒体 | 掲 載 | 方 法 | 内 容 | 時 期 |
|---------------|----------------|--------|---|------|
| 東京メトロ | 6月 沿線イベント | メトロ駅 | 戦傷病者の証言～収録地域別①北海道・東北地方編～ | 6月号 |
| 〃 | 8月 〃 | 〃 | 夏の企画展「病院船～戦傷病者を還送した船～」 | 8月号 |
| 〃 | 10月 〃 | 〃 | 定期上映会「戦傷病者の証言」～収録地域別②関東地方編～ | 10月号 |
| 〃 | 12月 〃 | 〃 | 定期上映会「戦傷病者の証言」～収録地域別②関東地方編～ | 12月号 |
| 〃 | 令和2年3月 〃 | 〃 | 春の企画展「病床からフィールドへ～スポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡～」 | 3月 |
| 千代田区振興会 | 8月ミューズ&シアターマップ | パンフレット | しょうけい館（戦傷病者史料館） | 8月号 |
| 千代田区観光協会 | イベント | ネット | 夏の企画展「病院船～戦傷病者を還送した船～」 | 7月 |
| 日本博物館協会 | イベント | 雑誌・ネット | 夏の企画展「病院船～戦傷病者を還送した船～」 | 7月 |
| 〃 | イベント | 雑誌・ネット | 春の企画展「病床からフィールドへ～スポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡～」 | 3月 |
| インターネットミュージアム | イベント | ネット | 夏の企画展「病院船～戦傷病者を還送した船～」 | 都度 |
| 〃 | イベント | ネット | 春の企画展「病床からフィールドへ～スポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡～」 | 都度 |
| 日本歴史 | イベント | 雑誌 | 地方展(福島展)・令和2年春の企画展 | 9月 |
| 〃 | イベント | 雑誌 | 春の企画展「病床からフィールドへ～スポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡～」 | 3月 |
| 東京都博物館協会 | イベント | 雑誌 | 地方展(福島展)・令和2年春の企画展 | 10月 |
| 〃 | イベント | 雑誌 | 春の企画展「病床からフィールドへ～スポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡～」 | 3月 |
| ちよだ生涯学習ガイド | ガイドブック2019 | 雑誌 | しょうけい館（戦傷病者史料館） | 年間 |
| イベントバンク | イベント | ネット | ミニ展示「傷痕軍人会」とは～県傷の活動を振り返る ～収録地域別①北海道・東北地方編～ | 5月 |
| 〃 | イベント | ネット | 定期上映会 戦傷病者の証言 6月、7月 | 5月 |
| 〃 | イベント | ネット | 夏の企画展「病院船～戦傷病者を還送した船～」 | 6月 |
| 〃 | イベント | ネット | 定期上映会 戦傷病者の証言 9月～ | 9月 |
| 〃 | イベント | ネット | 令和元年度地方展 —福島展— 3館同時企画展 | 9月 |
| 〃 | イベント | ネット | 定期上映会「戦傷病者の証言」～収録地域別②関東地方編～ | 9月 |
| 〃 | イベント | ネット | 定期上映会「戦傷病者の証言」～収録地域別②関東地方編～ | 10月 |
| 〃 | イベント | ネット | ミニ展示時代のーコマWVF(世界歴戦者連盟)とは | 10月 |
| 〃 | イベント | ネット | 定期上映会「戦傷病者の証言」ミニ展関連～沖縄戦での受傷～ | 1月 |
| イベントバンク | イベント | ネット | 春の企画展「病床からフィールドへ～スポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡～」 | 3月 |
| 東京観光公式サイト | 「GO TOKYO」 | ネット | しょうけい館「戦傷病者史料館」掲載 | 11月 |

| | | | | |
|---------------|------------------|-----|--------------------------------------|--------|
| 東京大人のミュージアム | 旅行ガイドブック | 雑誌 | しょうけい館「戦傷病者史料館」掲載 | 12月 |
| 千代田区さくら祭りガイド | ガイドブック | 雑誌 | 定期上映会「戦傷病者の証言」～収録地域別②関東地方編～ | 10月 |
| 広報千代田 | 広報千代田4月5日 | 広報誌 | “想い”を込めて～作品からみる戦傷病者～ | 4月号 |
| 〃 | 広報千代田5月5日 | 〃 | 戦傷病者の証言～収録地域別①北海道・東北地方編～ | 5月号 |
| 〃 | 広報千代田6月5日 | 〃 | 戦傷病者の証言～収録地域別①北海道・東北地方編～ | 6月号 |
| 〃 | 広報千代田7月5日 | 〃 | 戦傷病者の証言～収録地域別①北海道・東北地方編～ | 7月号 |
| 〃 | 広報千代田8月5日 | 〃 | 夏の企画展「病院船～戦傷病者を還送した船～」 | 8月号 |
| 〃 | 広報千代田9月5日 | 〃 | 夏の企画展「病院船～戦傷病者を還送した船～」 | 9月号 |
| 〃 | 広報千代田10月5日 | 〃 | 戦傷病者の証言～収録地域別②関東地方編～ | 10月号 |
| 〃 | 広報千代田11月5日 | 〃 | 戦傷病者の証言～収録地域別②関東地方編～ | 11月号 |
| 〃 | 広報千代田12月5日 | 〃 | 戦傷病者の証言～収録地域別②関東地方編～ | 12月号 |
| 〃 | 広報千代田令和2年1月5日 | 〃 | 定期上映会「戦傷病者の証言」ミニ展関連～沖縄戦での受傷～ | 1月号 |
| 〃 | 広報千代田令和2年2月5日 | 〃 | 定期上映会「戦傷病者の証言」ミニ展関連～沖縄戦での受傷～ | 2月号 |
| 〃 | 広報千代田令和2年3月5日 | 〃 | 春の企画展「病床からフィールドへ～スポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡～」 | 3月号 |
| 千代田区コミュニティバス | しょうけい館の紹介 | バス | 千代田区役所を起点として区内4ルートを巡回「かざぐるま」 | 1年間 |
| 地方公共団体 各学校 | 春・夏・地方展のチラシ・ポスター | 郵送 | 春の企画展・夏の企画展・地方展 | 都度 |
| 新聞掲載 | 西日本新聞 | 新聞 | 戦争の痛み物る証拠寄贈 | 6月26日 |
| 〃 | 朝日新聞 | 〃 | 夏の企画展「病院船～戦傷病者を還送した船～」 | 7月16日 |
| 〃 | 毎日新聞 | 〃 | 傷痍軍人パラ出場の夢 | 8月15日 |
| 〃 | 産経新聞 | 〃 | 平和の決意陛下と共に | 8月16日 |
| 〃 | 東京新聞 | 〃 | 夏の企画展「病院船～戦傷病者を還送した船～」 | 8月22日 |
| 〃 | 福島民報 | 〃 | 地方展 ―福島展― 3館同時企画展 | 10月4日 |
| 〃 | 福島民報 | 〃 | 地方展 ―福島展― 3館同時企画展 | 10月18日 |
| 〃 | 福島民友 | 〃 | 地方展 ―福島展― 3館同時企画展 | 10月18日 |
| 〃 | 読売新聞 | 〃 | 平成生まれ戦争語り部 | 11月6日 |

1 階展示更新図

友の会通信

戦傷病者との話し会

平成三一年二月二三日(土)

岐阜県羽島市において「戦傷病者とのおはなし会」を実施しました。今回の企画は戦後世代の語り部育成事業の一環として、実際に戦傷病者からお話を伺うことを目的として、平成三〇年度証言映像収録者をお迎えし、研修生一八名が参加しました。会の冒頭、新収録の証言映像を視聴したうえでおはなし会を行い、ご本人ならびにご家族が体験した労苦についてお話しいただきました。



後半は、研修生との意見交換会を行いました。研修生からは、おはなし会を振り返っての質問や、語り部として活動する戦後世代の人間に何を求めるのかといった質問が出されるなど、活発な意見交換が行われました。



語り部育成事業



参加した研修生からは「目の前に戦争で戦って受傷した方がいることが印象的」「負けてたまるか」という気持ちで生きてきた力強さを感じた」「戦傷病者の方の強い生命力と順応性の高さを改めて知ることが出来た」といった感想が寄せられました。

友の会通信 第8号

向暑の候、皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。新たな年号での初めての盛夏をむかえようとしています。

平成を振り返りますと、今から一〇年前の平成二一年一月に天皇后陛下(現上皇上皇后両陛下)をしようけい館にお迎えすることができました。また、平成二七年八月には、皇太子殿下(現天皇陛下)に、三館合同企画展をご一挙でご覧いただくことができました。今年春、天皇陛下御在位三〇周年記念展示と皇太子殿下御即位慶祝展示を催し、その時のご様子などをご紹介します。

万葉集が元号の出典となった新たな時代の始まりに、友の会で短歌を募集いたします。皆様からの応募をお待ち申し上げます。

しようけい館では一〇年前にも短歌コンクールを行いました。ここに当時の受賞作を一首紹介いたします。

国のため一度の生を戦傷の人の労苦を千代に伝へむ

齋藤 好司氏作

令和の時代においても、戦傷病者とそのご家族の労苦を継承し語り継いでいく使命は変わるものではありません。今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年六月

しようけい館 館長 奥野義章

この度、友の会会員の皆さまやご家族の皆さまから、短歌を募集させていただきます。お送り頂いた短歌は、館内で選考の上、次号の友の会通信に掲載する予定です。なお、選考方法は館に一任ください。返信用はがきを同封しますので、ぜひ、近況と合わせてお送りください。よろしくお願いいたします。

来館者の声

◆戦争で傷を負った人々のその後の苦勞を、手紙やアルバム、証言で知ることができ、その「人」のこと、一人の個人のこととして受け止めることができよかった。(六〇代女性)

◆兵士の受傷や治療について学ばせて頂きました。ぼろぼろになった装飾や道具などは、教科書では到底見られないものなので、とても興味深かったです。(一〇代男性)

◆こういう施設に来たのは初めてでしたが、私の様な戦争を全く体験していない世代は来るべきところだと思った。戦時が離れて行ってしまふ、記憶から遠ざかってしまふ事が一番あつてはならないと感じた。(二〇代女性)

証言映像収録のお願い

証言映像は、戦中・戦後の労苦を伝えるための貴重な資料となります。引き続き当館では、証言映像の収録を進めて参りますので、年齢、地域にかかわらず、戦傷病者とそのご家族でご協力頂ける方を探しております。

資料寄贈のお願い

戦傷病者の皆様に関する資料(写真、回想記、軍装品、摘出弾、義肢、受傷や恩給に関する文書等)、奥様に関する資料(日記、写真等)、傷痍軍人会、妻の会に関する資料(会旗、名簿等)をお持ちの方からのご連絡を待ちしております。資料は館で大切に保管し、継承事業に使用させていただきます。

「友の会通信」は毎年二回の発行を予定しております。

これから暑さが本番を迎えます。どうぞお身体ご自愛下さい。



発行/しようけい館
戦傷病者史料館
〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-5-13
ツカキスクエア九段下
電話 03 (3234) 7821
FAX 03 (3234) 7826

「病院船く戦傷病者を還送した船く」
会期 令和元年七月一七日(水)く九月八日(日)予定

病院船は、戦時において発生する傷病者または海難者を国籍に関係なく救助、治療することを目的とした船舶です。

日本では、初の対外戦争となった日清戦争以降、有事に際して陸海軍が民間商船を徴用し、整備・運用してきました。日中戦争からアジア・太平洋戦争期に至ると、病院船は中国大陸から太平洋諸地域に行動範囲を広げ、傷病兵の搬送、医薬品の輸送、派遣先での防疫など様々な任務に従事しました。終戦後、残された病院船は復員船として活動し、多くの在外邦人の復員輸送に貢献したのです。

本展では、資料をもとに病院船の活動の実態を紹介するとともに、病院船で搬送された戦傷病者にまつわる資料、証言をもとに病院船とはどのような存在であったのかについて考えます。

夏の企画展 予告

〈関連イベント〉

■展示に関する証言映像を上映

毎日 十時く一七時

■学芸員によるフロアレクチャー

(展示解説)

七月二八日(日)

八月 四日(日)

八月二五日(日)

※各日 一四時く一四時半



病院船「氷川丸」(画: 上田毅八郎)

春の企画展 報告

「想いを込めてく作品からみる戦傷病者」
 会期 平成三十一年三月一二日(火)～令和元年五月六日(月)

戦傷病者が作り上げた数々の作品を通して戦中・戦後の
 労苦を乗り越えようとした「想い」を展示しました。今回
 は、多くの方々から資料をお借りしており、資料寄贈関係
 者の中には、会期中にご来館いただいた方もおられました。



学芸員によるフロアレクチャー

印象深かったご家族の意見を紹
 介します。故人となった戦傷病者の
 親族一同が集まって「あの時はこ
 うだったね。」などと故人を偲んで
 おられました。ある方は、「父が
 こんな作品を残していたとは知らな
 かった。」と言って、改めて亡父の
 想いをかみしめておりました。関連
 イベントとして、証言映像シアター
 では本展に関連する戦傷病者及び
 ご家族の証言映像を上映しました。

企画展への感想

◆国のためにはからずも兵士となり、戦いで戦傷病者となつた
 人々のつらさ、差別、生活難、しかしそれを乗り越えて必死
 に生きる様子を少しながらも知ることができた。

◆バスや宿の拒否など悲しくなつた。戦地でハンセン病とい
 うのも初めて知った。もっと多くの人にここを知ってほしい。

◆特に原川良吉氏の作品を見て、感銘を受けました。たとえ両手
 があつてもあのように美しく、整つた字は書けないでしょう。
 何度も見返して、心が震えるとはこのことなのだと思います。

ミニ展示

「傷痍軍人会」とはく県傷の活動を振り返るく(北海道・東北地方編)
 会期 令和元年五月八日(水)～七月一五日(月)予定

当館ではこれまで、各地域の傷痍軍人会から
 様々な資料をご寄贈頂いておりますが、県傷に
 ついてはなかなか紹介できる機会がありません
 でした。また平成三十一年三月を以て、日傷解散後
 も活動を続けていた長崎県傷も遂に解散となり、
 傷痍軍人会の歴史に区切りがついたこともあり
 ますので、この度は都道府県傷を取り上げること
 と致しました。



一階改修工事



平成三十一年三月、しょうけい館一階
 の改修工事が完了しました。この度の
 改修では、証言映像シアターのスペー
 スを大きくし、収容人数が最大六〇名
 となりました。団体見学の学生をはじ
 め、たくさんの方の来館者の皆様にゆっ
 りと視聴していただくことが可能とな
 りました。また、データベースも改修
 し、一階の情報検索コーナーのパソコ
 ンでは、より資料や図書を検索しやす
 くなりました。資料展示も含め、今後
 とも来館者の皆さまに戦傷病者やその
 ご家族の労苦をお伝えしてゆけるよう
 努めてまいります。

皇室関連展示 報告

福島展(予告)

しょうけい館(戦傷病者史料館)「福島展」
 会期 令和元年十月一七日(木)～十月二十七日(日)予定
 会場 どうほう・みんなの文化センター
 (福島県文化センター) 三階展示室



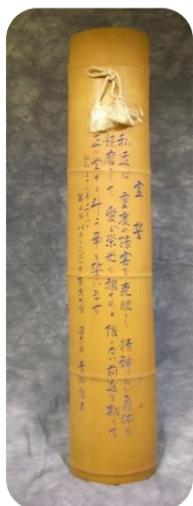
福島県の方から寄贈された箱根式車椅子

本年度の地方展は福島県で戦中・戦後の
 労苦を伝える東京の三つの国立施設(昭和
 館・しょうけい館・平和祈念展示資料館)
 が同時開催します。しょうけい館では、
 福島県にゆかりのある資料を展示し、県内
 で収録した八名の戦傷病者の証言映像を
 上映します。また、芸術分野で活躍された
 戦傷病者の作品などを紹介します。
 同会場では福島県文化振興財団による
 東京オリンピックに関連する展覧会も開催
 します。入場は無料ですので皆様のご来場
 をお待ちしております。

令和元年度 春の企画展(予告)

「戦傷病者たちのスポーツ大会(一九六四年)(仮称)」
 会期 令和二年三月一七日(火)～五月十日(日)予定

歴史を紹介するとともに
 戦傷病者とパラリンピック
 との関わりに迫ります。
 一九六四年開催の東京
 パラリンピックに選手とし
 て出場した戦傷病者の活躍
 や知られざるエピソードを
 紹介します。



竹刻(ちくこく)「宣誓」
 パラリンピックに出場した戦傷病者の宣誓

天皇御在位三〇年記念展示

会期 平成三十一年二月二一日(木)～三月三日(日)



●天皇皇后両陛下
 (現上皇上皇后両陛下)の御訪問
 (平成二十一年一月一九日)
 常設展では、館長の案内にてご見学いた
 だきました。受傷コーナーのシンボル展示
 では、皇后陛下からメガネをかけていた方
 の安否につきご下問があるなど、戦傷病者
 へのお気遣いをいただきました。

●箱根療養所の御慰問
 (昭和四〇年一月二九日)
 昭和四〇年、皇太子ご夫妻(現上皇
 上皇后両陛下)は箱根療養所をご慰問
 なされました。箱根療養所コーナーには、
 御慰問を記録した写真や関連資料を展示
 しました。

皇太子殿下御即位慶祝記念展示

会期 令和元年五月一日(水)～五月二二日(日)

昭和館、平和祈念展示資料館としよ
 うけい館の合同企画展示会「伝えたい、
 あの日・あの時の記憶」(平成二十七年
 八月一三日～二五日)を開催した際、
 皇太子同妃両殿下(現天皇皇后両陛下)
 並びに愛子内親王殿下の御視察を賜り
 ました。

今回、皇太子御即位慶祝行事の一環
 として、御視察を賜った時の御写真と
 御覧いただいた義手等を含めた戦傷
 病者関連資料の一部を展示しました。



語り部育成

令和元年九月七日、三年間の研修を終えた一期生の修了式を行いました。一期生からは、「戦争が何をもたらすのか、きちんと語り継いでゆきたい」など、今後の活動に向けた抱負を聞く事ができました。また、二期生は来年九月の修了に向けて講話原稿の作成を行っており、三期生は証言映像を視聴し、今後の方向性などを探っています。

語り部講話

令和元年一〇月より、語り部講話活動が始まりました。一〇月は三団体、十一月は六団体、十二月は一団体が講話を聞きました。中学生から大人の団体まで、団体の年齢層は幅広く、先は五月まで予約が入っています。

語り部の方々は、聞き手の顔やメモを取る速度を見ながら講話を進めていました。これからも多くの方々に、講話活動を通して戦傷病者の生きてこられた証を語り続けていきたいと感じています。

講話を聞いた方々からは、聞き入ってしまった、気持ちもよって聞いて聞きやすかった、分かりやすかった、と興味を持って下さった感想が寄せられました。また、しょうけい館の学芸員が解説を加えてくれたので理解が深まったという感想もありました。語り部だけでなく、学芸員も解説や質疑に応じて、この活動をより充実させたものにしていきたいと考えています。

語り部講話は、少人数の団体でも予約を受け付けています。皆さまの予約をお待ち申し上げております。



語り部講話の様子

語り部育成事業

友の会通信 第9号

向春の候、皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。旧年中は格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年は、戦後七五年を迎える年となります。先の大戦の記憶が風化していく中で、改めて過去を振り返り、歴史の教訓のなから、未来への知恵を学ばなければなりません。

戦中・戦後の労苦を語り継ぎ、次世代に継承していく活動について、決意を新たに取組んでいく所存です。

また今年、東京で二回目となるオリンピック・パラリンピックが開催される年でもあります。一九六四年に開催された第一三回国際ストーク・マンデビル競技大会（パラリンピック東京大会）には、五三名の日本選手が参加、その中には二名の戦傷病者の方が含まれておりました。その一人である青野繁夫さんは、選手団代表として選手宣誓の大役を果たすとともに、水泳と車椅子フェンシング団体で二つの銀メダルを獲得しました。

今年三月からの春の企画展は、「病床からフィールドへくスポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡」を開催する予定で、青野さんの東京パラリンピックでの活躍なども紹介します。

本号では、昨年の事業のうち、報告していなかった活動と、前号で募集した短歌の優秀作品を紹介いたします。

令和二年二月

しょうけい館 館長 奥野義章

来館者の声

◆戦争で傷を負った人々のその後の苦勞を、手紙やアルバム、証言で知ることができ、その「人」のこと、一人の個人のこととして受け止めることができよかった。（六〇代女性）

（一〇代男性）

◆兵士の受傷や治療について学ばせて頂きました。ぼろぼろになった装飾や道具などは、教科書では到底見られないものなので、とても興味深かったです。

（二〇代女性）

証言映像収録のお願い

証言映像は、戦中・戦後の労苦を伝えるための貴重な資料となります。引き続き当館では、証言映像の収録を進めて参りますので、年齢、地域にかかわらず、戦傷病者とそのご家族でご協力頂ける方を探しております。

資料寄贈のお願い

戦傷病者の皆様に関する資料(写真、回想記、軍装品、摘出弾、義肢、受傷や恩給に関する文書等)、奥様やご家族に関する資料(日記、写真等)、傷痍軍人会、妻の会に関する資料(会旗、名簿等)をお持ちの方からのご連絡を待ちしております。資料は館で大切に保管し、継承事業に活用させていただきます。



発行/しょうけい館
戦傷病者史料館
〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-5-13
ツカキスクエア九段下
電話 03 (3234) 7821
FAX 03 (3234) 7826

「友の会通信」は毎年二回の発行を予定しております。

寒い日が続きますが、皆様どうぞお身体ご自愛下さい。

「病床からフィールドへくスポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡」

会期 令和二年三月一〇日(火)～五月一〇日(日)予定

「パラリンピック」とは、脊椎損傷等による下半身麻痺者を指す「パラプレジア」と、「オリンピック」を合わせた言葉です。昭和三九（一九六四）年に開催された第一三回国際ストーク・マンデビル競技大会（パラリンピック東京大会）は、脊椎損傷者だけでなく、視覚障害者や聴覚障害者、肢体不自由者など、身体障害者全体の国際スポーツ競技会として開催されました。パラリンピックに出場した選手の中には戦傷病者もおり、多くの競技において記録を残す活躍をしました。

本展では、昭和三九（一九六四）年東京パラリンピックの歴史を紹介するとともに、戦傷病者がスポーツとの関わりの中で自身が抱える傷病をどのように乗り越えようとしたのかを、その労苦とともに紹介いたします。

春の企画展 予告



青野氏が獲得した水泳の銀メダル

（関連イベント）

■展示に関する証言映像を上映
毎日 一〇時～一七時

■学芸員によるフロアレクチャー
（展示解説）

三月二九日（日）
四月一九日（日）
五月三日（日）

※各日 一四時～一四時半

夏の企画展 報告

「病院船く戦傷病者を還送した船く」
 会期 令和元年七月一七日(水)く九月八日(日)

令和元年度夏の企画展では、傷病兵を搬送した病院船を紹介しました。病院船とは、戦時において発生する傷病者または海難者を救助、治療することを目的とした船舶を指します。

展示では、病院船の活動を当時の資料や映像で紹介したほか、病院船に乗船した戦傷病者の思いを資料と共に紹介しました。
 来館者からは、「体験者の話や絵、写真などで、当時の状況が伝わってきた」「氷川丸は有名で知っていたが、病院船だったとは知らなかった」など、多くの感想をいただくことができました。



フロアレクチャーの様子

企画展への感想

◆病院船は、中立的な立場であるにも関わらず、戦争に巻き込まれていたとは知りませんでした。更に、いまでも横浜港に展示してある氷川丸も病院船として使われていた時期があったことも始めて知りました。

◆様々な資料や、模型を通して、病院船の役割やたどってきた運命等がとてもよく理解できました。

◆戦場で傷つき、死んでゆくことの現実。そして戦争には、必ず長い「戦後」があるのだということ。戦争の勇ましさとかカッコ良さとか、そんな面ばかり強調されてないだろうかと不安を感じております。

短歌作品展

友の会通信第8号(前号)にて、会員の皆様に短歌を募集させて頂いた所、多くの方々よりご応募いただくことができました。お送り頂いた皆様、誠にありがとうございました。館内で選考の上、大賞、佳作、事務局賞が決まりました。皆様の作品をご紹介します。

大賞

いましばし 戦を語りつくすまで
 神よ佛けよ 召さるるなかれ
 岡山県

佳作

春の花 庭一面に 咲きそめて
 手入れ母念の亡き夫憶う
 広島県

佳作

床に伏す 夫に悔いなき 恩返し
 常に心得え 介護いそしむ
 岐阜県

佳作

皇国に 捧げた片脚 夢想感
 現世平和 余情に化す
 宮崎県

事務局賞

遠き日の 異国の丘に 見し月を
 今宵十五夜 重ね見てをり
 北海道

ミニ展示



展示風景



病院壕から出土した注射器
 (南風原文化センター所蔵資料)

証言映像収録



収録の様子

今年度は、徴用船で機関員をされていた方を兵庫県にて収録しました。この方は、ラバウルで船が攻撃を受け沈没し、僅かに生き残った仲間と島々を四〇日以上遭難しました。何とか辿り着いた先の病院では、機銃弾で右手を受傷し切断されました。利き手を失いながらも、戦後は夫婦で協力しながら印刷業を営み、その技術で評判となりました。

ラバウルでの経験や家族の事を思い、「一人では生きられない」と仰っていたことが印象的でした。

皆様からお寄せいただいた短歌

風雨にも じつと我まんの百合の花
 終戦後 楽しく暮らす 平成令和
 日販りで 行って見たいな 天国え
 鵜飼舟 大海は音を慎めり
 令和の年まで語りつづける 戦傷を未長く
 戦なら洞庭湖にて 終戦後 貝取りで飢えしのぎしと言う
 日々の老 何時まで続く 「楽天道」行く 令和の晩酌
 朝起きて 顔見てけんか すぐ忘れ 思い出ばなし 花いっぱいさく
 口ぐせに 九条は守らねばと云ひ 九十才で此の世を去りぬ
 くり返し 思い出たどる 年となり(九十七才)
 戦傷の父が使いし 遺品あり アメリカ製のスプーンと水筒
 ありがとう 言葉残して逝きし夫 令和の御代に夫を思いうる
 農家の長男に生れ 農は国の元です
 老せ兵 手足なきとて余生を悔いなき 活気良く楽しむ
 令和元年に伴い 第一・二・三の人生に挑戦に至る
 昔しばなし とぶぶしよだから はなしもとぶ
 つらいはなしが わらいばなしだ
 老いて知る 身体の弱りを
 日増しに弱り行く 我が身の 老いたりを

①WVF(世界歴戦者連盟)
 会期 令和元年一〇月四日(金)く二月二七日(金)

②関係施設紹介展く南風原が語る沖繩戦く
 会期 令和二年一月五日(日)く三月八日(日)

関係施設紹介展という事で、沖縄県南部の南風原文化センターより、病院壕から出土した注射器などの資料を借用し、展示しました。当館所蔵の関連資料や証言映像とともに、沖縄陸軍病院南風原壕内で行われた戦傷病者の治療や看護の実態について紹介しています。

2020年度 事業予定

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 備考 | | |
|-------------------|---|---|-----------------|---|-------------|------------------------------|----------------|---------------------------------|---------------------------|--------------------|-------------|------------------------------|---|---------|--|--|
| 展示事業 | 企画展 常設展示の内容を補完し 集客力の強化を図る | 春の企画展 (2019年度) 病床からフィールドへスポーツ に取り組んだ戦傷病者の軌跡～ 3月10日～5月10日 | | 夏の企画展 (2020年度) 「車いすと戦傷病者」(仮称) 7月14日～9月13日開催予定 | | | | | | | | | 春の企画展(2020年度) 「戦傷病者就労への道」 (仮称) 3月9日～5月9日開催 (予定) | | | |
| | 企画展準備 | 夏の企画展資料調査・準備 | | 夏の企画展原稿作成 広報チラシなど作成 | | 夏企画展業者発注など | | 春および夏の企画展資料調査・準備 | | | | | | | | |
| | ミニ展示 新着資料や寄贈資料などを随時公開し 常設展示を補完し利用者の増加を図る | | | 寄贈資料展1 5/12～7/12 | | | | 寄贈資料展2 9/15～11/29 燻蒸期間中休止 | | 寄贈資料展3 12/1～3/7 | | | | | | |
| | ミニ展示準備 | 寄贈史料展1 準備 | | | | | | 寄贈史料展2/3/4準備 | | 次年度ミニ展準備(予定) | | | | | | |
| | 3館同時企画展(地方展) 3館連携事業による地方への 館の知名度の向上を図る | | | 地方展のチラシ・ポスター制作 | | | 地方展のチラシ・ポスター配布 | | 3館同時企画展 岩手展 10/2～11 | | | | | | | |
| | 地方展準備 | | | 地方展準備 | | | | | | 次年度地方展準備/3館連携島根展準備 | | | | | | |
| | 3館連携スタンプラリー | | | | | 夏休み3館巡回スタンプラリー7月中～9月初 | | | | | | | | | | |
| | 厚生労働省事業への参加 | | | | | 子ども書が 開学 デー7月末 ～8月初 | | | | | | | | | | |
| | 証言映像上映 | 春の企画展関連証言映像 3/10～5/10 | | 企画上映会1 5/12～7/12 | | 夏の企画展関連証言映像 7/14～9/13 | | 企画上映会2 9/15～11/29 燻蒸期間中休止 | | 企画上映会3 12/1～3/7 | | 春の企画展関連証言映像 3月9日～5月9日(予定) | | | | |
| | 資料調査・情報収集 | 随時実施 | | | | | | | | | | | | | | |
| 広報活動 次世代継承事業 | | | 夏の企画展チラシ・ポスター配布 | | | | 地方展のチラシ・ポスター配布 | | | | | | 春の企画展チラシ・ポスター配布 | | | |
| 常設展示 | 展示室 | 随時:資料・データ等との照合・検証・調査・検討作業 | | | | | | | | | | | | | | |
| 資料 | 整理・調査 | 通年で所蔵資料及び新規受入資料の分類・整理・調査及び保存 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 殺虫燻蒸 | | | | | | | 燻蒸準備(対象リスト作成) | | 燻蒸 | | | | | | |
| | 収蔵庫・外部倉庫 | 令和元年度新着資料の整理分類 | | 外部倉庫資料リスト確認 | | | | 外部倉庫資料整理 | | | | | | 資料整理・確認 | | |
| 図書 | 資料図書 | 資料図書配架見直し | | | | | | | | | | 資料図書の修復 | | | | |
| | 整理・購入・レファレンス | 令和元年度新着図書の整理分類 | | | | | | | | 修復資料・図書の整理検討 | | | | | | |
| 証言映像 | 調査 | | | 証言協力者調査 | | 証言者調査 | | | | | | | | | | |
| | 撮影・編集・納品 | | | | | | | | | 収録映像編集 予定 | | | | | | |
| データベースの 整理帳票入力 | 「戦傷病者の記録」の 収集・帳票作成入力 (整理表の作成) | 随時実施 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 実物資料の帳票作成入力 (整理表の作成) | 通年で収集・整理し「戦傷病者の記録」の帳票作成入力 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 図書整理・帳票の作成入力 | 通年で収集・整理し実物資料の帳票作成入力 | | | | | | | | | | | | | | |
| 語り部育成事業 | 実施日程/1期生 | 語り部活動 | | 展示解説講習(予定) | | | | | | 語り部活動 | | | | | | |
| | 実施日程/2期生 | 第32回講習 4/11 | 第33回講習 5/9 | 第34回講習 6/13 | 第35回講習 7/11 | 第36回講習 8/8 | 修了式 9/12予定 | 語り部活動 | | | | | | | | |
| | 実施日程/3期生 | 第20回講習 4/18 | 第21回講習 5/16 | 第22回講習 6/20 | 第23回講習 7/18 | 第24回講習 8/22 | 第25回講習 9/19 | 第26回講習 10/17 | 第27回講習 11/21 | 第28回講習 12/19 | 第29回講習 1/16 | 第30回講習 2/20 | 第31回講習 3/20 | | | |
| | 戦傷病者情報提供システム | 情報収集・調査 学習支援活動/DVD 貸出キット等の貸出 | | 随時実施 | | | | | | | | | | | | |
| | | 通年で学習支援としてのDVDや貸出キットの団体貸出を行いながら戦傷病者情報の提供の充実を図る | | | | | | | | | | | | | | |
| | ホームページ | 更新 | 随時実施(毎月複数回) | | | | | | | | | | | | | |
| | | 館情報更新 | 随時実施(毎月複数回) | | | | | | | | | | | | | |
| | 友の会 | 会員組織・連絡 | 会員名簿確認 | | 友の会だより発行 | | | | | | 会員名簿確認 | | 友の会だより発行 | | | |
| | | 配布物 | | | 友の会だよりの編集 | | | | | | 年報発行 | | | | | |
| | 刊行物 | 配布物 | 前年度事業の集計 | | | | 年報編集作業 | | | | | | | | | |
| その他広報活動 | | 随時実施(広報ポスターやチラシ等の配布やメディア等への積極的発信) | | | | | | | | | | | | | | |
| 施設連携 | 3館連携会議及びその事業 千代田ミュージアム連絡会 日本博物館協会 国内類似施設との交流 | 3館連携会議参加・連携事業実施(スタンプラリーや地方展共同実施) | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 千代田ミュージアム連絡会会議参加・情報交換及び発信等 | | | | | | | | | | | | | | |
| 類似施設 資料調査 | 資料調査 | 日本博物館協会及び国内の類似施設との交流及び情報交換等の随時実施 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 有用の資料入手 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 関連類似施設の調査作業 | | | | | | | | | | | | | | |